

方言録音資料シリーズ—12

沖縄・瀬底島方言

国立国語研究所編

1971

もくじ

探録地点とその方言について	1
---------------	---

本文

I 上間幸次郎氏の自然会話	7
1. 濱底島のノロと門中について	8
2. 初代ノロについての逸話	17
II 上間真好氏の自然会話	19
1. 島の概説	20
2. 濱底島の年中行事について	32
3. 下男奉公について	42
4. 下男奉公についての笑い話と悲しい話	48
注記	53
濱底島略図	61

このテキストは、方言研究のための資料として
つくられたものであり、録音テープは国立国語研
究所に保管されている。

この巻に収めた方言の録音とテキストの作成と
は、国立国語研究所話しこば研究室のもとめに
応じてすべて内間直仁（東京都市立大学大学院博士
課程在学中、方言学専攻）が行なつた。

なお、探録地点は内間の故郷である。

採録地点とその方言について

1. 採録地点

沖縄本部町字瀬底

2. 地点の概観

瀬底島は沖縄本島北部、本部半島の海上、約500メートルに浮ぶ小さな島である。その西側の海上には水納島、北西の海上には伊江島がある。

瀬底島は周囲が約8.5キロ、総面積約280万平方メートル、人口2,300名、戸数520戸の一つの区である。学校は小中校の併置校が一つあって、生徒数は約400名である。農業が主で、砂糖キャビ、煙草栽培がさかんである。本島との交通は鉄船で行なわれている。日常の買い物は島内にある組合店や売店ですましているが、正月、盆等の大きな買い物は本部町渡久地の町に出かける。日常でも渡久地との交通ははげしい。たとえば、町役所につとめているとか、ペイン工場で働いている人々が多いが、その人々は島から通勤している。瀬底方言は渡久地方言とは少々異なる。それが今ではだんだん渡久地方言の影響を受けつつある。沖縄北部にはもう一つの大きな街、名護があるが、瀬底方言は名護よりもむしろ渡久地からの影響が大である。

3. 瀬底方言について

瀬底方言は沖縄方言の区画からすれば、沖縄本島北部方言に属する。

3.1 音 声

国立国語研究所・話しことば研究室指定の記号によって、モーカを示すと、次の通りになる。

?i	?e	?a	?o	?u	?ja	?jo	?ju	?wa	?N
hi	he	ha	ho	hu	hja	hjo	hju	hwa	
ei	eo	ea	eo	eu	eja	ejo	eju	ewa	eN
ai	oi	oa	oo	uu	oja	ojo	oju	owa	oN
ui	ue	ua	uo	uu	uja	uje	uju	uwa	uN
gi	ge	ga	go	gu	gja	ge	go	gwa	gN
ci		cja	cjo	cju					
zi		zja	zjo	zju					
ti	te	ta	to	tu					
si	sa	so	su	sje	sja	se	sju		
ni	ne	na	no	nu					
ri	re	ra	ro	ru					
pi	pe	pa	po	pu	pja	pe	pju		
bi	be	ba	bo	bu	bja	be	bjo	bju	
mi	me	ma	mo	mu	mja	me	mjo		
q									

3.1.1 ものな音声的特徴

つぎに、ものな音声的特徴を列挙する。

- 1) 喉頭音〔?〕があり、母音と撥音Nの前にあらわれる。?ain
《ある》など。また、喉頭・摩擦・無声の〔h〕に対して、喉頭・摩擦・有声の、を認めなければならないが、テキストでは特に表記していない。
- 2) , は i, e の前では [j], u の前では [w] に近い摩擦をともなう。
- 3) h は i, e の前では [ç], u の前では [ɸ] , それ以外の母音の前では [h] である。なお、hwa は [ɸa] である。
- 4) ガ行子音 g は語中においても破擦音である。

5) [tʃi] [tʃa] [tʃa] [tʃo] [tʃu]はあるが、[tsai] [tsə] [tsə] [tsə] [tsu]はない。その有口子音 [dʒ] についても同様である。

6) o は i, e の前では [ʃ] である。従って、[sei] [se] はない。

7) [d] と [r] は自由形容の関係にあって、その違いによって意味の区別をすることはない（従って、一つの音素に該当する）。

8) 有氣・無氣の区別はない。

9) ti, tu, di, du がある。p 音も存する。

10) 促音 q は語頭、語尾にはあらわれない。

11) 撥音で ?N は語頭にのみ、N は語頭、語中、語尾いずれにもあらわれる。

なお、〔 〕に入れてある記号は国際音声字母で、説明の補助手段として用いた。

3.1.2 共通語との対応関係

当稿は音韻レベルでの記述を目的とするものではないから、対応関係も詳しく述べられないが、音声レベルでごく簡単にふれておきたい。

1) 母 音

母音は次のように対応する。

共通語 a i u e o

当方言 a i u i u

共通語の e, o が当方言で i, u となるが、これは沖縄方言では一般的である。なお、語例についてはテキストの資料を参照のこと。

2) 連 母 音

共通語 ai ae ao au

当方言 e: e: o: o:

この対応も沖縄方言においては一般的である。

3) 前の形式の末尾音が -u, -i で、これに係助詞 ja《は》が接すると、次のような変化が起る場合がある。

-u + ja → -o: 例 ?atu《後》 + ja→?ato:《後は》

-i + ja → -e: 例 ?ari《あれ》+ ja→?are:《あれは》

4) 子 音

△共通語のカ・コが当方言では ha・huになる場合がある、その傾向は語頭において著しい。

△共通語のハが当方言では hwaになり、ヒ・ヘが pi になる傾向が強い。

△共通語のリは当方言では i である。

△語中でワ子音が脱落する傾向がある

例 ha:《川》 ta:ra《猿》

△共通語のヌ・ズ・ツは si:zi:ciなる。

以上が共通語との対応関係である。その他の音についてはそんなに共通語とかわらない。たとえば、共通語のサ行子音は当方言でも も である。

3.2 文 法

特に著しい文法的特徴をあげる。

1) 動詞の基本形は共通語の基本形にそのまゝ対応しない。たとえば、hakuN《書く》は共通語の「書く」にそのまゝ対応しない。服部四郎博士はそれを「連用形+居り」の結合したものであると説かれ、平山輝男博士は「連用形+居る+もの(を)」の融合変化してできたものであると説かれる。いずれにしても、それは共通語の「書く」にそのまま対応することではなく、そのためには、沖縄方言の動詞の活用は非常に複雑になっている。

2) 形容詞の基本形も共通語の形容詞の基本形にそのまま対応しない。

たとえば、takasaN《高い》は「高サナアリ」の変化したものだといわれている。

3) 助 語

△格助詞はしばしば文中でよく省略される。

Kumu: ne:N《雲がない》…… nu 《が》の省略

nuru naihwazimai 《ノロのなりはじまり》

…… nu 《の》の省略

wa:N ?ikuN《私が行く》…… ga 《が》の省略

so:keiwo:zidai ci:《尚敬王時代へきて》

…… Ngati《へ》の省略

nuru naimisoci 《ノロになりなさって》

…… ni 《に》の省略

また、係助詞 ja《は》もしばしば省略される。

?ukaminenju subiti Kima:ti《御神人はすべて決って》

△係助詞の pa 《か》 ru 《ぞ》はその係る活用形式を特異な形で結ぶ。

?ici:-ga ku:ra 《いつ来るのかしら》

?ami:-ga huira 《雨降るのかしら》

ti:-ru ?uqturu 《手を打つ》

haki:ru su:ru 《書きぞする》

△格助詞「を」に相当する形式は存しない。

cju: so:tikun 《人をつれてくる》

ma min 《馬を見る》

4) 代 名 語

△人称代名詞

单 数 複 数

1 人 称 wa:《私》 waqta:《私たち》

waN《私》

?a 《私たち》

?agaN 《私たち》

2. 人 称 ?ja:《君, おまえ》 ?iqta:《君たち, おまえた
ち》

na:《あなた》 naqta:《あなたたち》

naN《あなた》 naNta:《あなたたち》

?uNeju 《あなた》 ?uNejuna:《あなたたち》
?uNejuna:ta:《あなたたち》

3. 人 称

近 称 huri 《これ》 hunta:《これらたち》

hun 《これ》 huNta:《これらたち》

中 称 ?uri 《それ》 ?uqta:《それたち》

?uN 《それ》 ?uNta:《それたち》

遠 称 ?ari 《あれ》 ?aqta:《あれたち》

?aN 《あれ》 ?aNta:《あれたち》

不定 称 ta: 《たれ》 taqta:《たれたち》

taN 《たれ》 taNta:《たれたち》

taru 《たれ》

△指示代名詞

指示代名詞（事物・場所・方向をされ示すもの）は次のようにな
っている。

近 称 huri 《これ》 huma 《ここ, こちら》

中 称 ?uri 《それ》 ?uma 《そこ, そちら》

遠 称 ?ari 《あれ》 ?ama 《あそこ, あちら》

不定 称 diru 《どれ》 da: 《どこ, どちら》

4. 地点選定の理由

国立国語研究所話しことば研究室の要求による。

I 上間幸次郎氏の自然会話

録音日時 1969年8月1日

録音場所 はなし手の自宅

はなし手

氏 名 上 間 幸 次 郎

年 令 87才

職 歴 濑底区長、本部町会議員、瀬底産業農業協同組合理

事を経て、現在隠居生活

居 住 歴 現地で生まれ、ずっと現在まで居住。

きき手 内 間 直 仁

1. 濱底のノロと門中について

解説：瀬底島の歴代ノロについて、その逸話を含めつつ述べ、さらに門中について述べている。

(1) *?aNa: dai-?icidai-nu nuru-hara-nu hwanaasi:-sa:-ja:-*
それでは、第1代のノロからの話をしましょうね。

sai sisuku-nu nuru-ja muka:si [瀬底の] tacihwazimai-hara
瀬底のノロは昔【瀬底の】立ちはじめりから

nuru ?ata:nu munu:-jara:nu dai-zju:saN-dai-nu so:kei-
ノロがあったものではなく、第13代の尚敬

wo:-zidai ci ku:gi-nu meirei-sai nuru nateN-gutu
王時代^クさて公儀の命令でノロになったよう

?ain-jo: kugi: je: sunNei-ja kugig-ja so:kei:-
であるよ、公儀[のね]。エーするとね、公儀は、尚敬

wo:-ja gusijalan-?e:kata-nu sjudsini-nu-basu-je:tu
王は其志願親方の出身の領だから、

(2) *sisuku-?e:ki:-nu nide:me-nu hwa:huzi:-nu-basu wuti*
瀬底エーカーの2代目の先祖の領^クて

?ukaminiJu subiti kimate:nu-gutu ?aiN nuru-ja
御神人はすべてきまつたようである。ノロは

(3) *sima:-nu nuru: ku:ginuru-rici ?usu-nu meirei-sai nuru*
鳥のノロは公儀^クとあって、側生の命令でノロに

nai-misoci sisuku-?e:ki:-nu nide:me-nu hwa:huzi-nu
なりなさって、瀬底エーカーの2代目の先祖の

(5) *cjo:re:-ga:je:misje:-tara ma:-ja wakaran-siga ma:*
妹嫁でいらしたのか、ここはわからないが、ここ、

nuru nai hwazimai-ja sisuku-?e:ki:-nu kwa:ma:ga
ノロ[の]なりはじまりは瀬底エーカーの子孫、

jinagunGwa-hara nati ?uNcju:-ga ?ikocu-ja nama
女子の子からなって、その人の遺骨は今

(7) *mja:tuda?ugwaN-ne: ?ain-jo: ?unu cjugi-ja mata*
ミヤトウガウガン^クあるよ。その次はまた

(8) *(nide:me:-nu...?anu a:) nide:me-nu nuru-ja mata*
2代目の...あの^ア2代目のノロはまた

(9) *?agari-nu jinagunGwa-nu nati ci: ?uNcju: (-ja)-ga*
アガリの女の子がなってきて、その人(は)の

(10) *?ikocu-ja mata nama mo:baru-nu nurubaka-ne: ?ain-ka:*
遺骨はまた今メーバルのノロ墓^クあるわけ。

(11) *?irinJa:-nu cju:-ni*
イリンヤーの人に孝されている。

(12) *sanDe:me:-nu (hwa:huzi-ja:) nuru-ja ?agataNMe:-nu*
5代目の先祖はノロはアガタヌメ^ク

(13) *kwa:-je:misjete:-siga ?ure: ?ai: ?agari-nu*
子でいらしたが、それはアーアガリの

zinaNsaaNanN-nu kwa:-jata-siga
次男三男の子であったが、[その人が5代目のノロに]なっているが、
nati-siga

(15) *?uNcju:(-ja)-nu ?ikocu-ja nama to:naNbja-ne: ?izi*
その人(は)の遺骨は今トナンビヤ^ク行って

?aira-hazi ?uN nuru nati hicje:tu tugi su:nu
あるはず。そのノロになってしまったら妻^クする

cju:-ja wura:nu siku-ne: ?aNa:ini ?agari-nu
人は居らず、瀬底^ク。そこでアガリの

(14) *hwa:huzi-nu ?urasaki-nu nakazuni-ri ?ju:nu cju:*
先祖が浦崎の仲宗根と言う人^ク

(15) *so:ti ci: wutu simiti hicje:jatu ?uNcju:-tu*
つれてきて夫^クさせて、そうしたらその人と

(16) *nakazuni:-ri:-ru:tu ?unu nuru-tu-nu naka-ne:*
仲宗根というのとの仲^ク

jinagunGwa cju: mai:riti hicje:jatu ?uri:-ja ?unu
女子の1人生れて、そしたらそれは、^クその

JinaguNgwa-nu mata ?uja:-nu kawai nuru nateN-jo:
女の子が また 頭の 代りに ノロ なっているよ。

?uri-ga a: sande: a jude:me-nu nuru ?ucima-nu
それが アー 3代の ア 4代目の ノロ。[すわわ] 内間の

buqpa: ?unu ?ucima-nu buqpa:-je:-siga ?uNeju:(-ga)-ja
おばあさん。その 内間の おばあさんであるが、その人(の)は

a: do:ko:-zju:?ici-neN-nu kanutu-nu?-nu tusi-ne:
アー 道光11年の かのとのうの 年IC

ma:riti taisjo: taisjo:-saN-neN-gaja: saN-neN-nu
生れて 大正、 大正5年から、 3年の

turarusi-nu sangwaci-zju:sigunici ci: ma:ci
貢年の 3月14・5日IC きて おなくなりになって

hicihicja:-siga cjo:ru hwacizju:si:-nu tusi-ne:
しまったが、 丁度 84の 年前に

ma:si:misocin-ba: ?uNeju:-ga ma:ci hicihicja:tu
おなくなりになったわけ。 その人が おなくなりになって それなら

(17) mata ?agari-nu hicide:me-nu hwa:huzi-nu. cjo:zjo:
また アガリの 7代目の 先祖の 長女、

(18) me:hinazinJa:-nu buqpa:-ga nai-misoci ?uNeju:-ga-basu
メヒナジンヤーの おばあさんが なりなって、 その人の頃

(19) ne:-ja ?uhuzjuku-tu ?arasi:-nu ?izitin-jo: nuru-nu
には ウフジユクと 我いが 出ているよ、 ノロの。

(20) geN?icri:-san-ga ?ukurisa:ini ?arasi: ?iziti
ゲン?イクリ:さん:が ?ウカリサ:イニ ?アラシ: ?イチ

?uhuzjuku-nu kw:ma:ga-hara rukure: ?unu N: ?ucima-
ウフジユクの 子孫から 6代、 その シー 内間

nu nurubuqpa:-ga ?atu-ja rukude:me-ja ?izitAn-ba:
の ノロおばあさんの 後は 6代目は 出たわけ。

(21) mi:gwa:ja:-nu sjeNtarO:-ga tuzi ?uhuzjuku-nu
ミーグワーヤーの 仙太郎の 裏、 ウフジユクの
[6代目は] 女

zjeNtarO:-ri ?i:-misje:nu cju:-nu sizjajinaguNgwa-nu
曾太郎と 言いなさる 人の 長女が

?izi:ti gurukunin hicihicja:tu ?aN-ga ?izi:nu muno:
出て、 5~6年 してから、 あれが 出る もの

(22) ?aran-rici ?ure: kutuwatihici hicihicja:tu na:
ではないって、 あれは ことわって、 そしたら もう

nama-nu nuru?uma-ja hicide:me-nu nuru-ja mata
今 の ノロは、 7代目の ノロは また

?agarI-nu kaguro:-saN-ga cjo:zjo-nu ?isitaN-ba: nama
アガリの 加羅五郎さんの 長女が 出たわけ。 今

gen:zjai ?ari-ga nuru nati ci:-siga juNdaimi-nu
現在 あれが ノロになって きているが、 4代目の

(23) nuru-ja (24) ?uNcija:siki-ne: ja: huci
ノロは ?内間 ?anu) nuruNcija:siki-ne: ja: huci
あの ヌルンチ屋敷の 家を 端てて

men:je:tei:-siga ?unu ja:-ja (tat-) hukitata:goja
いらしたが、 その 家は 非建て小屋、

?anaja: ojukuti me:aje:te-siga hwacizju:si:-nu tusi:
非建て小屋を つくって いらしたが、 84の 年駄IC

nati ci: hicihicja:tu ?unu ?anaja:-nu sira?ai-nu
なって きて、 そして その 非建て小屋が 白ありが

kati na: te:hu: hukiba wu:turaN-gutu nati ci:
食って もう 台風が 吹けば 届れないように なって きて

hicja:tu hudu: saNnaN-jikiga jikigaNgwa so:ti ci:
しまったから そこで 三男の男、 男の子を つれて きて、

?okami-ju me:-ne: na: ?uituma simisori-
御神の 前に もう[ノロのつめを] おいとま させて下さい

rici ?ubusij: ?usagiti ?aNaI ?unu-ja: ?uN basu-ne:
といって、おさげきを ささげて、 そこで その家を その 場で

?unu (24)
 その 日に muru koNgeN-ba: koNci sizimiti ci:
 全部 こわしたわけ。こわして かたげて きて,

 hicja:tu ?unu juru:-ja ?unu saNnaN-nu me:
 せしたら その 夜は その 三男の ところ,

 (25)
 [その] 反へ行って 自分の 會孫, あの 本家の 會孫,

 ?a: meInaci juhui-misoci hicchicja:tu ?unu-mama
 プー前にして おやみなさって, そうしたら そのまま

 cja:maisei ?okami-ne: ?ujubiqkwanu juru: ma:si-misoci
 おぐなりにかんたん 御神に お許しをえた 夜。おぐなりなさって

 hici na:saqja:-ja saNgwaci-nu zju:gurukuru-nici-guru
 そして その翌日は 3月の 15・6日頃

 jarAn-gaja: hi:-ja: ?ubireN-siga tasikan i saNgwaci-
 でなかつからしら 日は 覚えてないが たしかに 3月

 tura-rusi ja-siga ?a: taiso:-saNneN-gaja tura-rusi-ja
 貢年 であるが, ブー, 大正3年かしら 貢年は,

 masi-misoci ?aNsI hicchicje:siga huNto: ?okami-N
 おなくなりなさって ああ なってしまったが, 本当 那神も

 meNaje:sa-ja:-ri ?umuti sinzirarin-jo: na: niNng-nu
 いらっしゃるのだと 思って 信じられるよ。もう, 人間が

 ?okami-nu me:-ne: na: nuru ?uituma simi-miscri-rici
 那神の 前に, もう ノロを おいとま させて下さいといって

 ci: ja: sizimiti ci: hicja:tu ?unu-mama ma:cjaN-ri
 きて, 家を かたげて きて せしたら そのまま おなくなりになつた

 ?i:-ne:ja nakanaka huNto: ?okami-N meNaje:sa-ja:-rici
 言うならば, なかなか 本当 那神も いらっしゃるのだねといって

 ?umuti sinzirari:siga ?aNtu sima:ja mukasai-hara
 思って 信じられるが, だから 島は 音から

 siziraka:sanu hwanari juktu hunu-gutu hic ?ukami-nu
 翼力抜けて, 離れ だから このように して 那神の

(26)
 ?eNganji:-N ?ugamari-si ?uri-N hicja-siga
 エンガニーも 押まれるのは, それも したが〔エンガニーも押んだが〕,

 ?uri-N nama ?ugam-riN nati ?ure: nuru-nu-ru ?ugturu
 それも 今は 押されなく なって, それは ノロがぞ 打つのだ

 -ricin hwanasi:-N ?ati ci: hicja:-siga du:na:-N
 という 脇も あって きて いたが, 自分達も

 ?eNganji: ?ugamN-ri ?agci hini
 エンガニーを 押むと 歩いて して〔自分達もエンガニーを押さうと歩いて

 (27)
 pe:kInja:-ne:ti ?eNganji: ?ugari si:-ne:ja
 みたが], ベーキンジャーで エンガニーを 押もうと すると,

 (28)
 ?aNmari na: (29) ?acira ?ugamaraN-ruN
 あんまり もう あちら〔神様〕 押されないぞ

 si:-ne:ja (30) (?uhu ?unu) ?uhujumi sinu:gu-
 するならば〔押されないときは〕 ウフュミ シヌ

 (31)
 nu:ba: ?ucigusiku-Ngati naNei: nubui-misje:tan-jo:
 グの時, ウチグシクヘ 一人で 登りなさったよ。

 jama-N mi:-ci ?amm:-zi ?umuigaci si:-misje:N-ba: na:
 山の 中へ。 あそこで 思い掛け しなさるわけ。 もう

 ?unu ?umuigaci-ja taciga si:misje:tara hic ?ari-ga
 その 思い掛けは どう しなさったのか, そして あれが

 meNao:ci me:-nu pe:kInja-ci meNsoci *to: Jagati
 いらして, 前の ベーキンジャー いらして, *と やがて

 ?unu kane: ?ugamari:tu muru sizikani hicjuri-
 その 鐘は 押まれるから 全部 静かに しておれ

 jo:-ja:-ri ?i:ba ?icjuti si:misje:ta-siga ?aNci
 よね」と 曰え巴, 言って おられたが, ああ

 si:ba sugu ?ugamaritaN-jo: ?aNtu ?uri-ja mata
 すけつ すぐ 押されたよ。 だから, それ(鐘)は また

 nuru-nu-ru ?ugturu-rici:nu hwanasi: hic ?ukami-nu
 ノロがぞ 打つのだといふ 脇も あつたが, これは

huNto: nuru-nu-ga 9uqtutara mata 9ukami-ga-ga 9ugti-
 本当 ノロが 打ったのか、また 御神が 打ち
 misje:tara na ma:-ja tasikamiraN-ba: du:na:-nu ra:
 なさったのか、もう ここは たしかめられないわけ、自分達が ね、
 9ure: na: ru:na:-nu 9ugarariba-ru wakairu su:-siga
 それは もう 自分たちが 併んでおればぞ わかるのだが。ですが、
 (33)
 9unu 9atu-hara-ja na: zjegatai 9ugamaraN haneja
 その 後からは もう 絶対に 押されない。 はれ!
 9uNcju:-mari: 9aNcini muno: 9ugamaqt 9uNcju:-ga
 (34)
 その人まで もんなん ものは 押まれて、 その人が
 ma:ci hicjatu-hara 9ugamanan-siga hanCino
 おなくなりになつて したから 押されないが。 このような
 rito:-ja subiti 9aNcini 9a: siziraka:sanu 9uri-jasiga
 駿島は すべて のような アー 霊力量かで なんですが、
 sima:-nu nuro: nama mari: ojo:ro hicidai nati
 島の ノロは 今 まで 丁度 7代 さて
 hici-siga 9ukaminicju nuro kimatasi-ja zjui:sandai-nu
 いるが 御神人、 ノロの 決ったのは 13代の
 so:keiwo:-zidai gusicijaN-ze:kata-nu zdai-ne:
 向敷主時代、 皇室顕廟方の 時代に
 (35)
 kimati:ra-ri 9unnin wan:
 決つただろうと 思う 私は。
 9unumaNguru-ja: (9ikuci) 9ikuci-nu muNcju:-nu si:ku-ne:
 その頃は いくつの 門中が 深底
 9ata:-ga-ri 9i:-ne:-ja mutuma-nu muNcju:-nu 9ain-jo:
 あつたかと 言うと、 6ヶ所の 門中が あるよ。
 9uhuzjukumuNcju: 9uri-hara nakaramuNcju: nakahurumuNcju:
 ウフジユ門中、 それから 仲田門中、 仲宿門中、
 9uri-hara hicjaNhwatamuNcju: 9uri-hara 9agari-nu
 せから ヒナヤンア門中、 それから アガリの

muNcju: 9ukubarumuNcju: 9unu mutuma-nu a: muNcju:-nu
 門中、 美原門中、 その 6ヶ所の アー 門中が
 meNcje:to:N-gutu pain subiti jinagugami-ja 9unu
 いらしたよう る。 すべて 女の神は その
 mutuma-nu kwa:ma:ga-hara nama wa:-ga munu 9umuti-
 6ヶ所の 子孫から 今 私が もの 思って
 hara (wa:-ga na:-ja) muru cizin-ba: su:tu
 (物について) (私がもな) 全部 続いていわ。 ですか、
 9ukami-9arasui-N muka:si-hara pati hicje:-siga muru
 御神争いも 音から あって しているが、 全部
 9uri hicj 9a: jate:-siga 9unu nuru 9ukaminicju-ja
 なに LCT, アー、 であつたが、 その ノロ 御神人は
 subite 9unu kwa:ma:ga-hara muru 9izi:ti ci: hicj
 すべて その 子孫から 全部 出て きて して、
 nuro-ja 9agari-N kwa:ma:ga nigami-ja 9uhuzjuku-nu
 ノロは アガリの 子孫、 根津は ウフジユの
 kwa:ma:ga 9ueigami-ja a nakahurumuNcju: 9uri-hara
 子孫、 おきて神は ア 仲宿門中、 それから
 9unu tacigami-rici ma:-niga 9uhujumi-sinugu-ne:
 その タチ神といつて、 馬など ウフミシヌク
 nuiisi-ja 9a: nakaramuNcju: 9ukubarumuNcju: 9agari-nu
 来るのは アー 仲田門中、 美原門中、 アガリの
 muNcju:-hara muru 9izi:ti 9aNcji hicjakuN-gutu 9ain-
 門中から 全部 出て、 あんなに しているよう ある
 ri 9aNsutu hure: sima-ja mukasi-hara 9ukamiguni-rici
 とき ですから これは 島は 昔から 御神国といつて、
 mukasi-nu 9uta-ne:-N 9usire:kubusi-ne: 9ain-jo:
 昔の 歌にも 田波筋に あるよ。
 *sisekku-tiru sima-ja danSu tujumariru sirukuci-ja
 *深底という 島は なるほど 富み栄えた島だ。 周囲は

?utaki naka-ja ?eguni? sirukuci-ja su?i-sai hacje:ra-
御歌、 中は 登が山國だ” シルクチは 周囲で 聞いてあらたら

ri ?umuiN su?i-ja ?utaki sirukuci-rici ?aNoInu
と 思う。 周囲は 御歌、 シルクチといつて。 あんな

(35)
kutu:nu ?aitu ?aTu ?ukamiguto: ?uqkari hici-ja
ことが あるから、 だから、 御神ごとは 駆かしく しては

naraN-sa:ri ?umutin-ba: na: ?uqsa:
からないと 思っているわけ。 もう それだけ。

2. 初代ノロについての逸話

解説：初代ノロについて伝説風に語られてきているものを述べている。

mja:tuja?ugwaN-ne: meNsje:ru nuru-ja ?uNojo:
ミヤートウガンに いらっしゃる〔葬っている〕ノロは、 その人は

bjo:ki hici ma:ei-miso:cjanu munu: para:nu siwa:si
前気 して おなくなりなさった もの ではなく 部走

kju:-nu siwa:si-nu (kirama me:-nu-ba:) siwasi-nu
田舎の 部走の (鹿児間の前の頃) 部走の

(2)
migka-nu hi: to:rumaimaba-Ngati hara:zi ?arai-ga
3日目の 日、 トールマイ浜へ 妻 流いき

meNsoci hana:zi ?une:na:zi-ja ?umi:zi hara:zi
いらして、 必ず その頃は 海で 妻を

(3)
?arai-misje:te:tu hicihicja:tu kagusimabuni-nu tanaha-
洗いなさったから、 そしたら、 鹿児島船が 海きょう

(4)
ne: ha:tutu ?unu huni-nu kakunjo:ga tinma-hara
に 停泊していて、 その 船の 船員たちが てんま船から

?uriti ci: ?uNojo: go:kan san-rihicje:N-jo: ka:i-N
おれて きて、 その人を 弥森 しようとしているよ。 美しくも

?atoN-te: hicihicja:tu ?uNoju: sugu pagisjabijo: hic
あつたはず。 そしたら、 その人は すぐ 大変だよー して

(5)
?ui-gati nubuti-meNsoci maneti "ziqta: huni-ja-hja:
上へ 畏りなさって、 ここで “お出でを” 船はね、

(6)
EjaNpa ?ika:ba warire:hja:"ri ?ici ti: ?ussi-
残波 行かば われてしまえ”と 曰て 手を 合わせ

miso:ci hicacatu ?unu huni-ja taeki-nu no:ti ?izi
なさって、 そしたら その 船は 天気が なおって 行った

hicja:-tu zjaNpa-zi he:waritaN-ri ?ju:nu hwasaki:
ところ、 残波で われてしまつたと 言う 話を

kici hicihicja:tu ?uNta:-ga ki:-ne:ja nai mata
 聞いて、それなら、その若たちが きたならば、もうまた

 ?uNta:-ne: kurusariN-ri ?ja:ni ?uNcjo: ma:zi hakuri-
 その若たちに 犯されると 言って、その人は ここに 関れ

 misoci na: simasju:-N oju: ?igi:ti sagaci-N wura:nu
 なさって、もう 島中の 人が 出て さがして ね 居らず、

 (7) ?ato: ?unu hu:i pi: siki:ti mo:ci hicja:tu ma:-je
 後は そのあたり 火を つけて もやして、そしたら ここは

 ma:ti ?unu jame: ?uqsa:-ja maiti hicihicja:tu ma:si
 行け戻って、その 山 それだけは やけ戻って、そしたら ここへ

 ?izja:tu ma:ne: na: masimiso:ci meNso:ci oja:ma:
 行ったら ここに もう おかくなりなさって いらして、そのまま

 ma:-ne: ko:muti hicjeN-ri ?ju:nu hwanasi:
 ここに 弾って やったと 言う 無。

II 上間真好氏の自然会話

録音日時 1969年8月22日

録音場所 濑底公民館

はなし手

氏名 上間真好

生年月日 大正8年12月28日生

職業 濑底農協組合長、本郷町会議員・同議長

居住歴 0~24才在郷、25~26才兵役(福岡)
26~現在 在郷

きき手 内間直仁

1. 島の概況

解説：瀬底島の成り立ちからはじめて、過去から現在へかけての島の生活状況、児童生徒の教育状況等について述べている。

(1)
si:kuzima-nu kunibiraki-ja mukasi-nu tusiNcja-kara-nu
瀬底島の 囲開きは 昔の 年若いたちからの

hwanasai: kici miruN-sa:bire: te:ge: joNhjakuhscizju:-
話 聞いて みますと、 大教 4 8 0

nin-baka: natiN hanssi:-je:biN ?aNsai: hwazimi-ja
年ばかり なっひる 話です。 そこで、 はじめ

nakizIn-kara nanakine:-nu ja:ninzu-nu si:kua:kai
今帰仁から 7歳族の 家族が 潮原へ

meNsoci sima-nu ?icibaN takase:nu ?ucigusukujama-
いらして、 島の 一番 高い ラグシク山

runu ?anu hiN-ne:-ja:siki mutumiti nanakine:-sa:i
という もの あたりに 屋敷を あるて 7家族で

(3)
si:kuzima-ja ha:zimiti kunibiraki sicjeN-gutu
瀬底は はじめて 囲開き してあるよう

?aibiN ?aNsai: joNhjakuhacizju:-neN-kaN-ni ziNkot:-N
あります。 そこで、 4 8 0 年間に 人口も

nisjeNeNbaku-niN kine:-N sanbjakuniziko nama-ja
2 3 0 0 人、 家族も 3 2 0 戸、 今は

mutubucjo:-ne:tin ?icibaN magisje:nu ?azja-Ngati
本部町でも 一番 大きい 字へ

nato:bin je' sima-nu ?uhwanasi:-sa:bire:
なっています。 エー、 島の あらまし お話します、

sima-nu mawari-ja nirihiwaN nagasa-nu ?iciri ?aNsai:
島の まわりは 2里半、 長さが 1里、 そこで、

(4)
so:cibusu:-ja zjeNbua-sai muru-sai: je:
総坪数は 全部で、 全部で エー、

(5)
kju:zju:maNcibu:-rinu-gutu nato:ibiN mukasi-nu kurasi-
9 0 万坪というようになつてあります。 昔の 生活

(6)
tu nama-nu kurasi-nu sabi:ne: si:kuzima-ja
と 今の 生活の [比較を] しますと、 潘底島は

huNto: wakimizi-N ne:raN tami-ne: me:nin-me:nin-nu
本当に 勇き水も ない ために、 毎年毎年の

kura:si-ri ?ju:ei-ja ?umu:-tu wugis: suko:ti
生活と 言うのは いもと 徹頭セビを 作って

kurasigata-ja (su: ?e:) so:bis:siga ?e: pjai-ne:
生活等は (し、エー) しておりましたが、 エー、 ひでりK

?atai-ja si:-ne:tija mizi-nu ne:ranu hwamasakiga:
あたりは するならば、 水が なく、 芦崎川

(8)
hajo:ti na: mizi-N kuri sje:kacju su:nu ?atai-
通って もう 水も 游んで 生活 する くらい

je:bis:taN ?aNsai: waku ne:nu kunu mizi-ja ejanuhu:zi
ありました。 そこで、 勇き水の ない この 水は どのように

hici misi tute:ta:gajai:-rici hanasi sabi:ne:tija
して 水を 取っていたかしらといって 話 しますならば、

sima:-nu ?icibaN ?ui-nu ha:jama:-Nri ?juN tukuma:-ne:
島の 一番 上の、 他の山と 言う ところに

(10)
ke:ga: hutu saNkasho:-baka: ke:ga:
飲み水をためる池を 握って、 3ヶ所くらい 飲み水をためる池を

(12)
huto:bi:-siga ?uri nagarimisi ?acimiti kunu mizi:
握ってみがく、 そこ 流れ水を 集めて、 この 水を

nuri na: sje:kacju-N so:bis:siga mata kuma-ne:
飲んで もう 生活も しておりましたが、 また ここに

?iwar:i-nu ?aibiN-sai ?unu ha:jama-ri ?ju:N tukuma:-
いわがれ あります。 その 池の山と 言う ところ

ja kuma-ne:-ja kamisama macjuri ?agiti kunu
は ここには 神様 祭り あげて、 この

kamisama-nu meNeje:tu si:ku-nu muraNoju:-ja kunu mizi
 神様が いらっしゃるから 濱底の 村の人は この 水を
 nuri-N nu:-N bjo:ki-N saN sjelkacju-ne: zjo:to:-ro:-
 放んでも なにも 病気も しない、 生活に 上等だ
 (15) rici so: ?ju: sinko:-nu kami ?agami:nu kukuru-sai
 とおって、 せう 言う 信仰の 神 帰める 心で、
 kuni mizi nuri sjelkacju-N hici je: so:bitan
 この 水を 放んて 生活も して エー、 しておひました。
 (14) je: si:kuzima-ja ?umu:-nu hakumaqti ?umiNoju:-ga
 エー、 濱底島は 海に かこまれて、 海人が
 (15) ?uhos:je:habara-ru ?umui-Jabira-hwazi-je:bi:-siga ?aN-
 多いのかと 思うで しようはずですが、 そう
 (16) je:biraN haru-ja na: joNzju:manci-bu-N hwaru: ?ai-
 ではなく、 煙は もう 40万坪も 煙 あり
 sabi:kutu mukasi-kara ?umiNcju:-rici-ja meNe:ranu
 ますから、 昔から 海人といつては、 いらっしゃらないで、
 muru hijakuso:-ru (so:bitti: je:) so:bitru ?aNsai:
 全部 百姓ぞ (しております エー) しております。 そこで、
 sukoimun-ja na: mukasi-ja na: ?umu: na: nakaguru-
 作物は もう 昔は もう いも、 もう 中項
 kara ci: wugi:-N suko:ti sa:ta: sukote:bi:-siga
 から きて 作って 作っておりましたが、
 ?umu:jsta:te:kaNja na: mukasi-nu ?umu: ?uisi-ja so:ru
 いもであっても もう 昔の いも 栽えるのは 丁度、
 su:manbo:eu:-nu siNgwaci-ne: ?umu: ?uiriba na:
 小溝芒穂の 4月に いも 栽えとる、 もう
 ?iqkanN-kaN ?umu: ?uiranu ?aN hici me:nin me:nin
 1ヶ年間 いも 栽えず、 ああ して 毎年 每年
 gasi hici na: ke:munu:-N ne:N mizi-N ne:Nne: na:
 初種にまわれ、 もう、 食べ物も なく、 水も なければ、 もう

ke:munu:-N ne:N ?unu kurasakiata-ja so:biN ?uro:-ja
 食べ物も なく、 その 生活は しております。 それは
 mukasi-kara maNkui ?aN-jatara ?umui sabi:-siga
 昔から どこも ああだつたであろうと 思い ますが、
 si:kuzima-ja na: ?unu: ?umui:-tu mizi ne:N juini
 濱底島は もう その いもと 水が ない やえに
 kumi-N cjkui sanu na: ?umu baka:-zi na: sjelkacju
 米も つくり さむが、 もう いも ばかりで もう 生活
 hicjo:bi:-siga je: zje:Nzj?en si:kun-e:-ja sima-ne:-ja
 しておりますが、 エー、 全然 濱底には、 島には
 ta:-ja ne:-jabiraN-siga hamasaki ?unu (?aNci)
 田は ないのですが、 斧崎、 その (アンチ)
 (17) ?aNciro: wata:ti tibu:ni-sai: wata:ti je: ta:
 アンチ道を 渡って、 手舟で 渡って、 エー、 田、
 (19) maNnata:buku-kure:-ngati sima:-nu ?e:kiNcjuta: ta:
 满名田んばあたりへ 島の 貴産家たち 田を
 muoci meNe:ci kumi: ?ikubunka suko:ti je:
 所有して いらして、 米を いくらか 作って、 エー、
 so:bite:-siga na: mukasi-nu kurasakiata-ri ?i:
 やっておりましたが、 もう 昔の 生活と 言い
 no:tija ?umu:-ru ru:na:-nu hwaMao: niNzju:-nu hwalme:
 ますと、 いもぞ 自分達の 食物、 年中の 食べ物、
 na: kumi-ja na: ?aNmesearu-ba: mata ?arija na
 もう、 米は もう 気分の悪い時、 また、 あるいは もう
 (20) hici:nu:-ba:-ri ?ju:nu:gutu:-ru na: karute:nu:hu:ziz-
 祭りの時と 言うように もう、 食べていたよう
 je:bin nama:jatiN ta:-ja sa:biraN-siga ja:pasi
 あります。 今でも 田は しませんが、 やっぱり
 hwaru:baka: nato:biN-ssi
 煙ばかり なっています。

je: sikuzima-ja na mukasi-kara waku-ja neiraN na:
エー、瀬底島は もう 昔から 泳き水は なく、もう

tinsei:mizi tami:ti je: nuro:bita-siga ?izja:nu ?N:
天水 ためて エ、 旅んでいたが、 去った ジー、

sjeNkj:uhjakurokuszju:saNne-nu na: hsNka-niN-ju: pja:ti
1 9 6 5年の もう 半ク年世も 立派な

sabi:takefu cuj:-nu kuni-ne: mizi-nu ne:hsuN-rici
しましたところ、 人の 国に 水が ないのにといって

?aina:-rici na: ?azjamiN-ja muru ri: tici-ja na:
あるかといって、 もう 字民は 全部、 よし！ ひとつは もう

bo:riNg-jiatiN simi:ti sje:hu-nu katagata-N bo:riNg-
ボーリングでも させて、 政府の 方々に ボーリング

re:N simi:ti mizi mutumiN saNne:tija naraN-
でも させて、 水を 求める〔ように〕 しなければ いけない

(21) siga-rici hanasi:-nu na: murakwai-ne:tiN ?ati
が、といって 話が もう 会話でも あって

sabi:takefu ?aNe:i ojocjo:saN(-je):-nu: ?unige:
しましたところ、 そこで 頃後さん(エー)に お隣い

hici na: rokuzju:ssaNneN-nu hwacigwaci-guru bo:riNgu
して、 もう 6 5年の 6月頃 ボーリング

(22) sabitakutu na: ?umuiygakinai na: mizi-nu ?izjabiti
しましたところ、 もう、 念がけなく もう 水が 出まして、

hukasa-ja te:ge: hijakunanaziqsjaku-ri ?junu tukuma:
深さは 大概 170尺と 言う ところ

huti hicjakutu mizi-nu ?izjiti ci: nama-ja suiro:
掘って したところ、 水が 出て きて、 今は 本道も

ja:ja: ?iqci mizi-ne:N huziju: saN-gutu riQpana
家々に 入って、 水にも 不自由 しないように 立派な

sjeikacju hici muru na: gakumuN-nu cika:ra cuj:nu
生活 して、 全部 もう 学問の 力、 人の

?N: kikai-nu heqtacju si:ba ?aNeiN kutu:-N naisse-
ン 樹枝が 発達 すれば、 あんな ことも なるんだ

ja:-rici ?azjamiN-ja na: cuj:-N sima-ne:N makiraN-
ねといって、 字民は もう 人の 島にも 負けない

gutu ta:-gaN cuj:ne: wararaN-gutu riQpana sje:kacju
ように、 鮎がも 人に 笑われないように、 立派な 生活

(23) naisa-ja:-rici muru na: jukurkuN sire:-je:bin
できるんだといって、 全部 もう 喜んでいる 次です。

?aNsai mukasi-ja ?unu si:kuzima-nu watas:a:-ri
そこで、 昔は その 瀬底島の 渡し舟と

?ju:si:-ja mutubu-nu hamasaki-tu na: si:ku-nu
言うのは 本部の 浜崎と もう 瀬底の

?aNcibama-tu-sje: i watas:a: sa:biti na:
アンチ浜とで 渡し船を しまして〔航海して〕、 もう

mukasi-nu huni-ri ?ite:ti ja taqtana:-rici na:
昔の 舟と 言いますと、 タッターニといって もう、

maci-sje: sukot:tru huni-sje: cuj: nuri:ba na:
松で 作ってある 舟で 人が 乗れば もう

zju:nin-na: ?atai-na: nuti ?aNsI ?e:ku:sa: huzi
10人ずつ ぐらいづつ 乗って、 そして 僕で 游べ、

na: ?aNsI hicju:ti na: (a: cuj:-N) sikuzima-nu
もう あんなに しておって もう (ア-, 人も) 瀬底島の

(24) cu:te: wate:ti tokuni na: mizi ne:nu ?u: sirai-
人たち 流って、 将に もう 水の ない ウー、 時代

ne:ga:jaibi:ne:tija hamasaki-keru mizi tuin-ri ?unu
なんかでありますと、 浜崎から 水を 取るために、 その

watas:a:-ne: na: mizi-N na: haja:cj: sje:kacju-N
渡し船に もう 水も もう 運んで、 生活も

kurasikata-N hicjo:bi:taN-siga na: ?uri-N tusi:ti
生活も しておりましたが、 もも、 それも 年が

?iku:tu si:Nre:-si:Nre: hwazimi:-ja taqtana:-hara kikai
 立つと 次第次第も はじめ タタタケーから 机械を
 siki:nu huni:-N riki:ti nama:-ja na: mukasai:kara
 つける おも てきて、今は もう 音から
 (25) hikaku si:nestija saata ?uri:-N rukuszju:
 比較しますと、去った それも。60,
 rukuszju:sanNeN-nu hicigwaci:-no: nama:-nu watasa:-N
 65年の 7月に 今の 渡船も
 riki:ti na kuruma:-N ciri hon:vi:-N si:kusima:-N nu:-N
 できて、もう 自動車も 領んで 本Eも 漢底島も なにも
 (26) kawaraN-gutu zido:sja:hara toraaku:kara nunkui na:
 変りのないように 自動車から トラックから なんでも もう
 (27) sima:-kai wuti riqpana kono watasa:-N rikito:N
 島へ 后て 立派な この 渡船も でている。
 sire:-je:bi:Nsei je: si:kusima:-nu gaqko:-nu
 次第です。 エー、 漢底島の 学校が
 rikihwazimata:ja na: kuNru-mari: te:ge: hacizju:nin
 できはじめたのは もう 今度まで 大概 60年,
 N: nato:bi:-siga gaqko:-nu hwazimi:-ja si:kusima:-nu
 ソー、なっておりますが、学校の はじまりは 漢底島の
 (28) kunibiraki hicjanu me:-nu hucjamui:-runu tukuma:-ne:
 国開き した 前の フチャムイという ところに
 (29) cjo:ru kajabukija:-sa:i si:tu:-ja na: signu:N wute:-
 丁度 芽菴屋で 生徒は もう 4.5人 居た
 gisjeN-hu:zi:-je:bi:N ?aNsai hazimiti:-nu ko:ejosjeNsjeN
 らしいようです。そこで はじめての 校長先生
 ja je: si:kumaziri:-nu ?aNsai magiri:-ri ?ici
 エー、 漢底間切りの、 その当時は 間切りと いって、
 si:ku:-ja nato:bi:sjeNsjeN-hu:zi:-je:bi:t:-siga si:ku:-ru:N
 漢底は なっていらしいようでしたが、 漢底という

cju:-nu ?u: hwazimi:mi ko:cjosjeNsjeN si:-misoriba
 人が グー、はじめ 校長先生 しなされば、
 gagko:-nu sjeNsjeNsjeN-nuN si:-misoci ?aNsai hazimiti
 学校の 先生も しなすって、あして、はじめて
 si:ku:-ne: gagko:-N ?izi:ti na: ?izi:te:-gisjeNsjeN-hu:zi:-
 漢底に 学校も 出て、もう、出たらしいよう
 jebi:-siga ?aNsai ?unu to:zi:-nu gagko:-nu cje
 ですが、そこで その 当時の 学校の、は、かんと、
 ?uNdo:zjo:-N ne:-jabiraNsjeNsjeN-riba tara kajabukija:-sje:
 運動場も ありませんで、ただ 芽菴屋で
 jusi:mi ?isi:baja tati:ti mane:ti si:tu:ta: a:
 西南に 石柱 立てて ここで 生徒達 アー、
 beNkjо: simite:nu-hu:zi:-je:bi:N ?aNsai ?uri:hara na:
 焚箱 させていたようです。そこで、それから もう
 si:Nre:-si:Nre: jununakata:-N hirakiti ci: gagko:-ja
 次第次第も 世の中も 開けて きて、 学校は
 murat:-nu si:kuzima:-nu ho:bata(-nu)-ne: gagko: ?uci:uci
 村の 漢底島の 南側(の)に 学校を 移して、
 na: si:ku:-nu zi:Nzjo:so:gagko:-kara hwazimate:N-gisjeNsjeN
 もう 漢底の 尋常小学校から はじまつたらしく
 hu:zi:-je:bi:-siga ?aNsai gimusko:?iku:-nu zirai:-ne:ti:-
 ようですが、 そこで、 義務教育の 時代で
 je:bi:ti:N ko:to:kwa:-ja ne:nu tuguci:-Ngati ko:to:kwa:-
 ありましても 高等科は なく、 渡久地へ 高等科
 ja ?isi socugjo: hicci sima-ne:-ja na:
 は 行って、卒業して、島には ジ
 zi:Nzjo:so:gagko:-nu rokuneN-mari:-ru ?atei:-gisjeNsjeN-hu:zi:-
 尋常小学校の 6年までぞ あつたらしく
 je:bi:-siga ?uNte:ti:N na: hanarizima-je:kutu
 ですが、その時にでも もう 離れ島だから

si:tu:buni:-rici watua: suko:ti si:tu:-ne: na: husi
 生徒会といって 渡し舟を 作って、 生徒会 もう 潟いで
 watatai su:-gutu hici na: ko:to:kwa-nu gaqkoi:-N
 游々で するようIC して もう 高等利の 学校も
 (52) tuguci wuto:ti na socugjo: su:te:N-gisjeN-hu:Zi-je:bi:
 徒久地IC 居って もう 卒業 しておったらしいようです
 siga na: ?unu to:si:-ja na: ?ai ?ai-misje:nu
 が、 もう その 当時は もう[先生]ある、 ありなさる
 ?e:kiNcju:-nu waraNejata:-ru na: tugucigaqko:-N
 資産家の 子供達ぞ もう 技久地学校も
 hajoti beNkjo:-N naihi:te:ru na: ku:saruta:-ja na:
 通って 効強も できましたんで、 もう、 貧乏者達は もう
 so:gakko:-jatin joneNeja: socugjo: su:si:-N wu:bi:
 小学校でも 四年生を 卒業 するのも 居り、
 rukuneNsje: socugjo: su:si:-N wuteN-gutu ?ai:bi:-siga
 6年生 卒業 するのも 居たようで ありますが、
 kure: na ?ucina:zju: ma:N ?a:nsinu kutu:-ru:jata:ra-
 これは もう 沖縄中 どこも あんな ことぞだったらう
 ri ?umui-sabi:-siga ?unu sju:sjeN-ni N: tusi-ne: na
 と 思いますが、 その 終戻の シー、 年に もう
 gakko:-N muru jakaqti sabitaku:na: ?unu sikici:-ja
 学校も 全部 燃かれて しまいましたから、 もう その 故地は
 hu:sje:kutu ?uri ?iteN sa:Nne: naraN-rici nama
 小いから、 それを 移転 しないと いけないと 今
 (53) me:-nu si:kubaru:-ne: ?aitanu gakko:-ja nama(a):-nu
 前の 準底組に あった 学校は 今、 (ア)、 の
 (54) gakko:-nu sikici:-ja ha:Ntabaru:-rici sima:-nu nisigawa-
 学校の 故地は ハンタ畠といって、 島の 北側
 (55) Ngati ?acju:ci na sse:to:-N jo:Nhaku:-mei ri:pana
 へ 爰して もう 生徒も 400名、 立派な

(57) (58) (59)
 tatemono-N riki:ti na beNkjo:si:gata-N sicjo:nu u:
 道物も さて、 もう 佔領等も しておる ヴー
 sire:-je:bi:-siga je: maruhuru: gaqkoi:-N na: rito:-N
 次第ですが、 エー、 なるほど 学校も もう 鮮島の
 kaNkei:-re ko:ko: ?aqkasu:si:jatin cja: na: ma:
 関係で 高校 出すのでも いつも もう これを
 (40) kajo:ti:-N ?aqkasari:biraN cja:tumaikumi simi:tuti:-ru
 通っても 通学させられませんし、 そのまま泊りこんで させていてぞ
 gakko:-N ?izja:ci waraNejata: kjo: ?ikugata:-ne: na:
 学校も 出して 子供達の 教育等IC もう
 (41) neqsin-ni muru hici me:Naje:-siga a si:Nre:-si:Nre:
 熱心IC 全部 して いらっしゃるが、 ア、 次第次第
 sju:sjeNgo:-ja si:tu: roqpaku:-mei:-baka: wu:bita:-siga
 終戻後は 生徒 600名ぐらい おりましたが、
 nama:-ja na: muru na he:kata:kure: kozja nahwati
 今は もう 全部 もう 南部あたり、 コザ 那覇へ
 muru hikoci si:tu:-N ?ikjaraku nati ci: na:
 全部 引退して、 生徒も 少なく なって きて、 もう
 te:ge: jo:Nhaku:-me:-baka:-ru natiNra:-ja:-ri ?umuto:bi:N
 大橋 400名ぐらい なっているだろうねと 思っております。
 je: hwanasi:-ja mata me:-Ngati muri-jabi:-siga na:
 エー、 話は また 前へ 戻りますが、 もう
 si:kuzima:-ja ?umu:-tu sa:ta:zikoi:-ru ?umu:-je:bi:te:kutu
 頭底島は いもと 砂糖作りぞ 主でしたから、
 hwazimi sa:ta:zikoi je: sa:bitasi:-ja ?usiguruma:-rici
 はじめ 砂糖作り、 エー、 しましたのは 牛車といって
 je: ki:guru:ma:jate-giesjeN-hutzi:-je:bi:N kuruma:-N
 エー、 木製の車であったらしいようです。 車も
 hwazi:mi:-ja na: ?anu: maci:niga: to:ci
 はじめは もう あのー 枝などを 倒して

?uN-sai kuru:ma siko:ti ?aNe:i ?usi-ne: hika:ci
それで 車 作って そこで 牛^K 引かして,

?unu wugi:-N siru subu:ti sa:ta: a: hic-i-sabite:-siga
その 砂船^{ヤシロ}の 汁を しぶって 砂船を ア 作っていましたが,

(42) ?aNsai: sa:ta:ja:-nu na: kaja:ru ?ja:bi:-siga
そこで、 砂船屋の もう 働り方ぞ いうのですが、

?uri:ja ?ucimagumi mata tana:gumi nukagumi
それは 内閣屋、 また、 ナーラー屋、 中屋、

?isiwa:gumi je: ?iqcjahwagumi-rici haNe:i sa:ta:ja:-
イシワリ屋、 エー、 イクチアフ屋といって、 こんな 砂船屋

nu kumi-N siko:ti na: ?anu wugi:-N sa:ta:-nu
の 組も 作っていて もう あの 砂船キビも、 砂漁の

sjeijo:-N hicje:-gisa:je-hu:zi:je:bi:-siga ki:goruma:-
製造も したらしいようですが、 木製の車

kara haniguruma nati ?usiguruma-kara ?umaguruma nati
から 鋼製の車に なって、 牛に引かず車から 牛に引かず車に なって

je: sjusjongo:ja na: ?umaguruma-N na: ?uri:ja
エー、 戦後は もう 車に引かず車も もう それは

sirai-nu ?ukuri-re:tu-rici na: hacuro:ki-N ?inti
時代の 連れだからといって、 もう 発明頃も 入れて

(43) kikai je: kibi:-nu ?aqssku:-N sa:Nne: narsN-rici
機械、 エー、 砂船キビの 压搾も しないと いけないといって

sjetto:ko:zjo: tatiti hicjo:bita:siga ?uri:-N na:
製船工場を たてて しておりましたが、 それも もう

rito:-nu kwaNkei-tu wugi:-nu ?ikjarasanu tami:ne:
離島の 国体と 砂船キビが 少ない ために

hunu sa:ta:ja:-N na: ne:N nati nama:ja na: honTo:-
この 砂船屋も もう なく なって 今は もう 本島

Ngati hokubusje:-Ngati:-ru wugi?uNpaN-N suN-gutu
^, 北部製糖へぞ 砂船キビ運搬も するように

nati mata no:ka-N ?uri:ga mata a: tami:rici
なって、 また、 農家も それが また アー ためだ(利益がある)といって

muru jurukuro:N(-?N:) srie:-je:biN je:bi:-siga kunu:
全部 喜んでる (シ-) 次第です。 ですが、 この、

nu:N ?iojaN-te:kaN si:kusima-no:ti-ja na: ta:-N
なんと いたとしても、 濡底島では もう 田も

(44) ne:N-ru ?aibitu koNgo:ja sa:ta:-nu ?N: sato:kibi:-
ないので ありますから 今後は 砂船の シ-, 砂船キビ

tu je: tabakuzikoi ?uri:kara suikazikoi na: ?uNa:
と エー、 紙作り、 それから 水瓜作り、 もう そんな

mu:N siko:ti ?wa:-nuN ?usi-N sikanati ?ikusi:-ru
ものを 作って 蔬も 牛も 飼って いくぞ

koNgo:-nu si:kunu no:gio:-nu hsqteN-ja ?ai:-ja
今後の 濡底の 蔬の 発展は あります

sa:N-gaja:-ri na: ?azjamN je: ti:ci nati kunu ?N:
しないかしらと、 もう 字民 エー、 一つに なって この シー、

no:gio:-nu haqteN-gata: na: kaNge:ti ?iku:nu
農業の 発展等を もう 考えて いく

kaNge:-je:biN
考え方。

2. 漢底島の年中行事について

解説：漢底島で行なわれている年中行事について述べている。

sikuzima-nu ʔugaNme:gutu-ja na kunihiraki ji: si-
瀬底島の 祈願事は もう 囲開き イー、し

miso:cje:nu kine:-N nanakine:-nu:jatatu-ga-je:bitara
なすった 家族が 7家族のであったからなのだろうか、

(1) na: nana?utaki-rici ni:ruku:ru-tu ʔu: nururuNci na
もう 7御嶽といって、根所と ウー、ヌルルンチ、もう

(2) sibataijama (3) tini:tku (4) ʔanci:ugwan ʔuri-hara
シバタイ山、 ティンティク、 アンチウグワン、 それから

(5) (6) ʔiri:-nu:ʔuta:ki me:-nu:ʔuta:ki-si nana?uta:ki-kara
西の御嶽、 前の御嶽で 7御嶽から

nati ni:nzju:-nu na: ʔugaNme:gutu-ja so:ibi:-siga
なっていて、 年中の もう 祈願事は してあります、

ni:rukuma-ri ʔju:N rukoma:-ja sikumu-nu murabiraki
根所と 言う ところは 漢底の 封開き

si:-misocje:nu ʔuci-nu ?iciban ʔui-nu ?:
しなすった うちの 一番 上の シー、

kata-jate:-gise:je:N-hu:zi:je:bi:N ja:-N na:-ja nama:-N
方であつたらしいようです。 家の 名は 今も

ʔuhuzjuku-rici ʔicjo:bi:-siga ʔuma-nu N: ni:dukuru-nu
ウフジユクといって いってますが、 そこの シー、 根所の

(7) ʔugwan-Nu ʔuhu?ugwan ni:N-ni taqke: watakusi:ugwan-nu
御嶽が 大きな御嶽が 年に 2回、 個人の御嶽が

taqke: ʔuri-kara na: ʔugwan-nu ʔaru:ha:zi
2回、 それから もう 御嶽が あるごとに

ni:rukuma-ja ʔugwan hwanimati-kara-ru nuNkui
根所は 御嶽が はじまってからモ いろいろの

ʔugwanGutu naibi:-siga na: ʔugwan-ne: ʔuho:ku N:
祈願事は できるのですが、 もう 部頭に 多く シー、

magi:ugwan-ri ʔju:si:-ja na: namasaki hwanasi
大きな御頭と 言うのは もう 今先 話

hicja:nu ʔuhu?ugwan-nu ni:Nzju: taqke: ʔuri-ja naci-
した 大きな御頭が 年中に 2回、 それは 夏

tu huju-tu ʔaibi:-siga surikara watakusi:ugwan
と 冬と あります、 それから 個人の御頭、

(9) ʔuri-hara (10) eika:sani ha:buto:ki na ʔuhujumisnugui
それから シカサニ、 ハブトーキ、 もう クフェミシグイ、

?junu tukuma: ni:rukuma(-ja)-zi e: ni:Nzju:(-?:)-nu
と言ふ ところを 根所 (は) で アー、 年中アー、 の

(11) gjo:zi-ja ʔukunaibi:-siga ʔuri-kara na: nururuNci-suN
行なは ないますが、 それから もう ヌルルンチという

tukuma:-ja na: sima:-nu N: si:kuzima-nu ni:ruku:ma-
ところは もう 島の シー、 漢底島の 根所

ri:ci mukakara na: ʔuma:-ja je: ʔuziganissama:Nci
といいて、 昔から もう そこは エー、 氏神様といいて

maciti na: ne:Nzju:gjo:zi:N cja: ʔuma:-kara-ru
祭って もう 年中行事も いつも そこからぞ

hwazimati ʔugaNme:-N so:bi:ruu je kunu ʔugaNme:-
はじまって 祈願も しております。 エ、 この 祈願

su:mu:ba:-nu ti:ci:-nu ʔu: ni:Ngwan-ja tunikaku na:
する時の 一つの ウー、 頭いは とにかく もう

piqaneN-na:-nu ju:ni:ge: jugahunige: mata a:
1年ごとの 世の罪い、 世界祓い、 また、 アー

(12) kuniNgwa-nu ke:Nko:-nu ʔunige: je: so:bi:-siga: je:
國の子の 健康の お願い、 エー、 してあります、 エー、

kawaqta tukuma:-ja ʔaNci:ʔuta:ki-suN tukuma:-ja
変わった ところは アンチ御嶽という ところは

?ama-ja sima:-nu ?aNcibama:-ri ?ju:si:-ja mukasi-kara
あそこは 島の アンチ流と 言うのは 背から

wataga: watai tukuma:-ru:je:bi:tu kunu ke:so:-nu
渡し舟を 渡る ところぞだから、 この 渡り道の

?aNsjeN kigaN-suN-tami-ne: ?unu ?aNo?ugan-ri:si:-ja
安全を 祈願するためには その アンチ御頭といふのは

riki:ti na: me:nin kuma ?uhu?ugan-nu:-ba:-ne: je:
できて、 もう、 毎年 ここは 大きな御頭の時に エー,

(13) ?ugwaNme: sa:bi:-siga je: na: kaizjo:-nu ?aNsjeN
祈願 しまが、 エー、 もう 海上の 安全、

kuma-nu hamasaki si:ku ?uciwatai su:nu cju:-nu
この 浜崎と 深底を 渡ったり する 人の

ke:so:-nu ?aNsjeN-nu kamisama-tu-hici mukasi-kara a:
渡り道の 安全の 神様として 背から エー

macjuraqto:i-gisjeN-hu:si:-je:bi:N
祭られているらしいようです。

?uri-hara ?iri:-nu ?uta:ki-suN tukuma:-ja ?ama-ja
それから 西の 御頭といふ ところは、 あそこは

na: a: me:nin-nu ?ugwaNme:-ja ?ikaneN ?uhu?ugan-nu
もう エー、 毎年の 祈願事は 1ヶ年で 大きな御頭が

tagke:-ru ?ai:sabi:-siga ?ama-ja mukasi-N cju:-nu
2回目 あります、 あそこは 背の 人の

(14) hwanasi:-ruN kici miru:sabi:-ne:tija nuruganasi:-nu
話ぞ 聞いて みますと ノロが

?ama-ne: ju: ?uwai:-misocjaN-rici ?unu ju: ?uwai:-
あそこに 世を 終りなさったといって、 その 世を 終り

misocjaN tukuma:-ne: nama-jatin mscjuri ?uru?iru
なさった ところに 今でも 祭を いろいろ

na: a: (kanunuru) ?unu nuru-ja na: re:zina
もう エー、 (このノロ) その ノロは もう 大変な

kamimasa:i-nu cju: nai:-misoci ?ama-ne:ti mi: ?uwai:-
神まさりの 人に なりなさって、 そこで 身を 終る

misoci hicja:tu ?ama-ne: cja:ma: ho:muigata-hici
なさって、 せしたら あそこへ そのままで 萩儀して、

nama na: ?ugaNme:-N so:bi:-siga me: ?utaki-ja ?ama-ja
今 もう 祈願も してあります、 前の御頭は あそこは

ti:ci:-nu ?u: ?aNsineu kamisama nu:-ru ?ju:N kamisama-
二つの ウー、 ものの 神様 なんと いう 神様は

(si) macjuteN-riciN kutu:je:biraN taro ?utaki-tu-hici
祭ってあるといっての ことではあります、 ただ、 御様として

mane: na: kuni manuigami-tu-hici je: ne: ?ama-ne:
ここに もう 国守り神として エー、 もう あそこへ

macjurigata je: hicjo:ibi:-siga kuma ?ikaneN
祭り等 エー、 しておりますが、 ここは 1ヶ年で

?uhu?ugan-nu taqke:-nu ?N: ?ugwaN-je:bi:N ?aNsai:
大きな御頭が 2回の シ、 御頭です。 そこへ、

si:kusima-ja na: kunibiraki hici-kara
瀬底島は もう 囲岡き してから

jo:Njhakuhacisju:neN-baka: naiN mutubu-ne:tiN hurusjeN
4 8 0 年ぐらいで なる。 本部でも 古い

(15) ?uci-ru je:...-biraN-siga ku:zinuru-rici mukai je:
うちも で...であるが、 公儀ノロといつて 背 エー、

ku:zinuru-ri ?i:-ne:tija na: ?ukami Noju-ne: nuru-
公儀ノロと いうと、 もう 御神人で ノロ

ne:tiN na: ?icibaN ?ui:-nu nuru:jate:-gisjeN-hu:zi-
でも もう 一昔 上の ノロだったらしいよう

je:bi:-siga ?icicqi:ziki: na: ku:zinuru-sa:i nama-
ですが、 なにかにつけて もう 公儀ノロで 今

jatiN ?unu na: ku:zinuru-sa:i nama-
でも その もう 公儀ノロが nana?uta:ki-nu ?ugwaNme:-ja
7 頭数の 祈願は

mata 9unu 9usagito:bin je: na:ti:ici hwanasi:
 また あの 行なっておりまます。エー、もう一つ 話

(16)
 sa:bi:si:-ja 9unu 9ugame:gutu-ne: na: 9uhueinihe:-rici
 しますのは その 斎靈事に もう ウフシニヘーといひて、

je: meNse:-eiga 9uma:-ja siku:Ngati tac:i-miso:cjanu
 いらっしゃるが、そこは 満底へ 立ちなさった

nanskine:-nu 9uci-nu 9iciban 9uire:-nu hwa:huzi:-nu
 7家族の うちの 一番 上位の 先祖の

(17)
 9unu eison-kara mo:nin-me:nin na: ju:cigi hici
 その 子孫から 每年毎年 もう 世継ぎ して

9uhueinihe: 9unu 9uhueinihe:-ru (N) ku:zinuru
 ウフシニヘー〔となり〕、その ウフシニヘーと (ン) 公儀ノ、

surikara 9ukami:ne: jinagu:uga:mi jikiga:uga:mi-rici
 それから 御神人、女のお神 男のお神といひて

nu:kui meNse:-eiga (ku: ja N:) 9se:ati na: kunu
 いろいろ いらっしゃるが、そこで もう、この

9uhueinihe:-ja na: ju:cigi nu:ru:-ja nama:-ja
 ウフシニヘーは もう 世継ぎで、ノロは 今は

siku:9eki: 9aga:ri:-ri 9icjo:bi:-eiga 9ama:-nu
 満底エーカー〔すなわち〕 アグリーと ひであります、あそこの

kwa:9umaga:-nu mata 9izin-gutu N: nato:biN
 子孫が また 出るよう に ジー、なっておりまます。

je: huka-ne:-ja ruku ne:ranu macjurigatu je:-ja-
 エー、他には あまり ない 祭り事 では

sa:bi:-eiga 9uri:-ja hicgwaci:-mu te:ge: zjuhacini:-
 ありますが、それは 7月の 大祭 18日

baki:-hara hwamimati te:ge: ssNniciK 9uga:N-nu
 ぐらいいから はじまって、大概 3日間 御顔が

9abi:-eiga 9uri:-ja 9uhujumisinugui:-rici na: 9i:ba
 ありますが、それは ウフユミシヌグイといひて、もう 言わば、

mata 9anu haNbuto:ki-ri-sunu muN-je:bi:-siga kunu
 また あの ハンブトーキという ものですが、この

haNbuto:ki-ri-si:-ja cjanuhu:zi su:ga:-ri 9ia:bi:-ne:ti:
 ハンブトーキというは どのように するかと 言います、

na jikigagami:-nu hacinin meNse:-eiga 9unu ejutta:-
 もう 男神が 8人 いらっしゃるが、その 人達

ga ja:-ja migui:-misioci 9iso: siru 9iso: hakiti
 が 家族 めりなさって、衣装、白い 衣装 着

(18)
 kaNmuri:-ja mata siru: siru kaNmuri kaNti ja:-ja:
 冠は また 白い、白い 冠 披って、家業を

miguti na: 9uri kigtu ti:ci:-nu kito:-runu hwanasi:-
 めぐって、もう せれは きっと 一つの 祈禱という 話

N kicjo:ibi:-siga na: 9aku:uge:barai 9aku:hubarai:-
 も ひであります、もう 暴風払い、 暴風払い

rici 9unu 9i:ka:-nu 9unu kinet:-nu 9i:kanenka:N-nu
 といひて、その 一家の その 家族の 1ヶ年間の

N: na: Jaku:harai:-ri su:N-c:ja:-nu cimuje:-gisie:nu N:
 ジー、もう 引払いと するといった つもりらしい ジー、

kutu:je:bin na: te:ku mu:ci kure:kugawa: mu:ci ja:
 ことです。もう、太鼓を 持って、小太鼓を 持って 家を

(19)
 miguti " ho: ho: hwa:Nzare:tu:-nu ho: "-rici
 めぐって、 ホー ホー フアンデヤレートゥヌ ホー といひて、

9unuhu:zinu na: taqke:-bakai 9abi:iti na:
 そのような〔言葉を〕もう 2回ぐらい 叫んで、もう

9charai:-sa:bi:-siga kuri:-ja huka-ne:N ruku ne:nu N:
 お払いしますが、 これは 他にも あまり ない ジー、

9ugwamuci:-je:bin
 御顔持ちです。

je: te:ge: 9unu 9atai:-ru na: sikuzima:-nu 9u:
 ジー、大概 そのあたりぞ もう 満底の ウー、

?ukamigutu ninzju:-mu gyo:zigutu-N ?aibi:-siga mata
御神事， 年中の 行事ごとも ありますが、 また，

ns:ti:ci:-ja ?uhujumisinugui-N-ba: ?uri-N hicigwaci-
もう一つは リフュミシグイの時， それも 7月

zju:haeinici kju:-nu-re:biN-ro: hicigwaci-zju:haeinici-
18日， 旧暦の日上， 7月18日

je:biN-ne: jinagu?uka:mi-nu mata ?uNcu:ta:
です [が, その時] K 女の神様が， また の人達も

?iso: haki-misici ?umanui-rici je: mai nui-misoci
衣装を 着なさって， 馬鹿りといって， エー， 馬鹿 来なさって，

?aNsai: jumi: muqe: na: ?anu: hicinu
そこで 弓を 持って， もう あのー， [こんなに] しての

?ugaNm: ?aibi:-siga na: mukasi:-ja ?aNsIN kutu:
祈願事が あります， もう 言は あんな こと[馬に

sa:bite:-siga nama:-ja na: ?uma-N nui tuka-
乗ることもしましたが， 今は もう 馬も 乗る とか

ri:ci (nai je:) si:-misoraN tara na: ?ucinaMo:-suN
いって しなきらず， ただ， もう ウチマンモーという

tukuma:-ne:ti ?acimati ne: ?anu ju:nige: murazu:-N
ところで 乗って， もう， その， 世界観頼い， 村中の

cju:-nu kara:ta nige: je: hici sotibi:-siga na:
人の 健康 願い， エー， して， しておりますが， もう

mukasi:-ja na: nu: si:baN ?ukamigutu nama:jatiN na:
言は もう 次に しても 御神事， 今でも もう

?ukamigutu mata mura ju: si:Nko: hicjuti: je niNniN
御神事， また， 全部 よく 信仰 していて， エー， 年々

kuma:ru:-nu ?ugaNm: gutu-N na riapa N: si:agiti
小まわりの 祈願事も もう 立派に エー， しあげて，

?azjamiN:jatiN hicjot:H-gutu hicjobi:-siga na: kurin
宇民でも しておるよう， してあります， もう これも，

mukasi:-ja mata ?unu ?ugaNmuci-rici N: cinahiki-U
音は また その 御師持ちといって， シ， 紺引きも

?ariba na: wuirui murawu:rui-nuN ?aibi:-siga ?unu
あひづ， もう 置り， 村賄りも あります， その

murawu:rui:-ja je: mukasi:Ncju:-nu hwanasi: sa:bi:-
村賄りは， エー， 言の人の 話 します[ところ

ne:tija me:nIN su:te:-gisjeN-hu:zi-je:biN
によります と， 毎年 したらいいようです，

(je:...) so:bite:N-hu:zi-je:bi:-siga ?uri me:nIN
しておったらしいですが， それを 何年

hici:-ja naral-rici si:kusima na: to:kaci si:-misjeN
しては いわがいといって， 濡底に もう 米寿 しなさる (21)

cju:-nu N: meNejoN-ha:-ja na: murawuirui je: hici
人が エー， いらっしゃる時は もう 村賄り， エー， して，

Mata to:kaci su:N cju: meNejo:raN-ba:-je na:
また 米寿を する 人が いらっしゃらない時は もう

cinahiki:-rici to:ge: ?unu-hu:zi: hici kimi:ti na:
御引きといって， 大概 そのように して 決めて もう

mura?ugaN mura?asiri-N so:te:-gisjeN-hu:zi-je:bi:-siga
村御願， 村遊びも しておったらしいようですが，

?unu wuirui:-ma:ru ?atain-ba:-nu wuirui suN tukuma:-
その 置り番 当る時の 置り する ところ

je namasaki hwansei: sa:bita:nu niruku:ma:-nu
は 今先 話 しました 根所の

?uhuzjuku-suN tukuma:-nu ma: ?ui:-ne: ?asi:bimo:-nu
クブヌクという ところの， その 上に 遊び広場が

?aibi:-siga ?ama wuto:ti kju:-nu hacigwaci:-nu kunici:-
あります， あそこへ おいて， 旧暦の 8月の 9日

kara a: hacigwaci:-nu zju:picinici hacigwaci:-nu
から エー， 8月の 11日， 8月の

zju:saNnic hacigwaci zju:jugka ?ugsa:-ja na:
 1 5 日, 8 月 1 4 日, それだけは もう
 ?ugwaNmuci na: mura?asibi-ri ?ju:ai:-ko:kai na:
 領持ち, もう 付遊びと いうより, もう
 kamisama-ne: taisuru na ?ugwaNmuci ju:nige:-nu
 神様に 対する もう 領持ち, 世界観いの
 ?asi:bi na: wu:rui hici
 遊び, もう 脳り して【それらの祈願をとり行なっているというよう】
 hwanasi: saqto:ibin-sai na: si:kuzima-ja mukasi-kara
 話が されてあります。もう 漢底島は 昔から
 ?aNeinu ?asi:bi-nu ?aibi:te:kutu na: kumiwi:rui-nu
 のような 遊びが ありましたから もう 繁殖り
 cjaqesIn ?aibi:siga je: ?u:kawatiki?uci-tuka ?aruija
 多く ありますが, エー, 大川敵打もとか, あるいは (22)
 mata ?ano: husijama-tuka ?aruija timizinujin-tuka-
 また のー, ハシヤマとか あるいは 手水の様とか
 rici-nu mukasi-hara-nu ?i:citaware:gitin tukuma:-N
 といった 言から の 言い伝えられて ところも
 kumiwi:rui ?urikara tiwurui nuNkui na:
 繁殖り 【として脳り】 , それから 手筋り, いろいろ もう
 huka-ne: ne:nu tukuma:-N: wu:ruimun rikiito:NbiN
 他に ない ところの シ, 脳りものが でてきております。
 (23)
 je cinaciki-ja kuri-ja na: sjenGo nikai-baka:-ja:
 エー, 綱引きは これは もう 戦後 2回くらいは
 a: cinahiki sabita:siga cinahiki-ja si:kuzima-nu ?u:
 アー, 綱引き しましたが, 綱引きは 漢底島の ウー,
 me:ho- tu hu:hi:-tu waki:ti hwacigwaci-nu
 前方〔南側〕と 後方〔北側〕と 分けて 8月の
 zju:?icinici-ne: je: sima:-nu nahamichi-su:N tukuma:
 1日K エー, 島の 中道という ところ

wuto:ti na: ?anu: cinahiki-rici ?uri piaci:?ugwaNmuci-
 において, もう 生のう, 綱引きといって, それは 1日御脳持
 ricci na: me:ho: hu:hiho: hitimiti-kara
 といって もう 前方も 後方も 朝から
 mici:zine: ?urikara si:ke ?urikara
 脳引手が常勝って道をねり多く儀式や, それから 押し合い競争 それから
 zjurugwa:?gije: ?unu-hu:zi hici na: saigo-ne:-ja
 斧車競争 そのように して もう 最後には
 cina: hici je: mata ?ucimaNmoo:-su:N tukuma:-no:ti
 繁殖を 引いて エー, また クチマンモーという ところで
 sima: tuti ju: ?akiru:si: na: kumu piaci:-ja
 相撲を とって 夜の 明け通し もう この 1日は
 ?ugwaNmuci-nu cinahiki-N na: kamisama-Nkai na: ?anu
 御脳持もの 綱引きも 神様へ もう 生の
 ?usagiN-ri ?ju:nu gjo:zi ?uri na: si:kuzima-nu
 さしあげると いう 行事, それは もう 漢底島の
 mukasi-kara citawati:nu N: gjo:zi-nu ma:ginu ?uci-
 脳から 伝っている シ, 行事の 大きい ウラ
 Ngati, na: wu:rui-tu murawu:rui?asibi cinahiki-ja
 ヘ[はいり], もう 脳りと 繩引き遊び, 綱引きは
 ne:ma:mari:-N citawati: N: genZai:-ni nama nato:biN
 今まで 伝って シ, 現在K 今 なってあります。

3. 下男奉公について

解説：明治末期頃に行なわれた下男奉公について述べている。

je: zinaNbu:ku:-rusi:-ja te:go: kuri ji meizi:-nu
エー、下男奉公のことは 大概 これは イー、明治の

nakaba-guru-kara hwayimati taisjo:-zju:nisaNniN-guru-
半領から はじまって、 大正12・5年頃

(1)
meri: ?unu-hu:zi:nu ?unu ziniNbu:ku:-rusi ?atei-
まで そのような その 下男奉公のことは あった

gisje:N-1:z-je:bi-siga mukasi:-kara-nu hwanagi:-na:
ギジン-イズ-ジ-エビシガ ムカシ-カラ-ヌ ハワンアギ-ナ:

kwa:hasibinso:-rici kwa: ?uho:ku nasi-ne:ti:ja piNeo:
子産し貧乏といって、 子を 多く 産むと 貧乏

suN-rici mata na:ti:ci:-nu muka:sikutuba:-ne: "masuciga
するといって、 また、 もう一つの 昔言葉に 升日を

hika-jo:kaN-ja kucibata hiki:-ricinu hwanassi: pain
ヒカ-ジョ:カヌ クチバタ ヒキ:-リシヌ ハワンアシ: パイン

tui hu:to: na: mukasi:-ja na: je: gasiru:-ja
通9、 本当 もう 苦は もう エー、 気難の年は

?atai-ne:ti:ja na: kwa: naciN cju:ta:-ja na:
あたると、 もう 子を[多く]産んでる 人達は もう

(2)
kakarumun kakarara:nu
かかるべきものも かかることができないで [病気になっても医者に見てもらえないこと]

?e:kiNcju:-Ngati rui:-nu N: ru:-nu kwa: hanasa rui:-N
貴産家へ 自分の シー、 自分の 子、 愛しい 自分の

kwa:-N ziniNbu:ku: ?u: simiti ?aNei na: ?a:
子も 下男奉公、 ウー、 させて、 あわして もう アー、

kurasigata ssNne: naraNmN(?N:)-ba:-je:bi:te:-siga
生活等を しなけり いけない (シ-) 時でしたか、

?uNto:zi:-nu na hjaqkwa:N-na: rusiru-ne:ti:ja magisaru
その当時の もう 百貫ずつ 身代金というと 大きい

jikiga-nu:-ru hjaqkwa:N-na:-sjei na ?e:kiNcju:-nu
男がセ 百貫ずつで もう 貴産家の

tukuma:-ne:ti na ziniNbu:ku: ziniNbu:ku:-ja dusiru-
ところで もう 下男奉行、 下男奉行は 身代金

rici rusiru hastamit? ?uN ja:-ne:ti sikaraqt? kuu
といいて 身代金を 負って その 家で 使われて、 この

?N: kate:nu sin ?N: kirasuN-gutu-jate:-gisje:N-hu:zi
ゾ、 借りた お金を ゾ、 さらうようであつたらしいよう

je:bi:-siga ?uri:-ja kate:nu sin mutusiN-ja kir?nu
ですが、 それは 借りている お金、 元金は きれ,
されど

ri:-bake: kiriti ?ikute:N-hu:zi-je:bi:N ?aNsai: na:
利子ばかり きて いきよったようです。 そこで もう

hwataraci mo:kiti ja:-hara ?unu rusiru ?iNraN-
働いて 猶けて(自分の) 家から その 身代金 入れない

ne:ti:ja na: ?icitutumi ?unu kine:-ne: na: sika:ra:
と、 もう いきている間 その 家庭に もう 併がなけれ

naraN-gutunu ?usumasi: jununaka-N ?ate:-gisje:N-hu:zi
いかないような 大変な 世の中も あたらしいよう

je:bi:-siga ?uri: ?uN sira:-nu hwansei: si:-ne:ti:ja
ですが、 それを その 時代の 話を する

nama:-nu wakasje:sita:-ga oja:sin so: sainu
今 の 若い者達が どうしても 信じ ないで、

namuNjumi-re:ru-rici hanasi: je: si:-ja saibi:-siga
うそつきだといって 話を イー、 しは しますが、

na: zide:-ja ?aNcnu zire:-re:bi:te:tu na: ru:-nu
もう 時代は みんな 昨代でしたから もう 自分の

kwa:-N ?uti na: zjur?ui:-rici mukaseNcju:-nu na:
子も 先って もう、 女郎元りといって お人の もう

(5)
7iqse:jo:gai:-nu 9ui:-ri oja:N kutu:-je:biteN:-sai 9uri:-ja
一生産の 先りと いった ことですよね。 それは

na: ziniNkwa:-N 9un-hu:zizi:jate:-gisje:biN na:
もう 下男子も そのようであつたらしいようです。 もう

mutusin:-ja kiriranu ri:-bake: kiri:ti 9izi mutusin
元金は されないで 利子ばかり きて いって、 元金

?Inri jo:ka:-ja na: nanzju:nin natiN na: 9un
入れる までは もう 何十年に なつても もう その

ja:-ne: sikara: naraN-ri cja:nu:-hu:zinu ?anu ns
家IC 使わなければ いけないと いっただよな， もの もう

?ucina: muru (?anu) ?an sabi:tara waqta: sima:-ne:
沖縄 全部 (あの) ああ しましたのか、 私達の 島に，

si:kuzima:-ne:-bake: ?aNsIn sjeiro:-N ?ai:-ga:sabi:tara
南慶島にばかり もののよう 制度も ありましたのか

wakajabiraN-siga ?aNsInu ?N: sire:-nu ?ate:-gisje:N-
わかりませんが、 もののような シー， 時代が あつたらしい

hu:izi:-je:biN ?atu muka:sikutuba:-ne: ?ja:bi:si:-ja
ようです。 ですから 言葉に いいますのは，

nama:-ja na: ziniBu:ku:-tuka nu:ga ?anu: rusi:ru:tuka
今は もう 下男奉公とか どうして ものの 身代金とか

?ja:bi:-siga sikama:-rici ?uN kutu:ba:-ja na: oja:ciN
いいますが、 シカーマといつて その 言葉は もう いかなる

kutu:-ga:-ja wakajabiraN-siga sikama:-rici na: du:-nu
ことかは わかりませんが、 シカーマといつて もう 自分の

kwa:-N wuraN na: rusiru hatamiresuN kwa:-N wuraN-
子も いない、 もう 身代金を 負わせる 子も いない

ne:tija ru: hu:NniN-sai: na siki:-ni na:Nnici-na:
と、 自分 本人で もう 月IC なん日づつ

na:Nnici-na:-ja ma: sigu:tu 9izi mubui muke:
なんにもずつは ここへ 仕事 行き 戻り 遇え

hici su:te:nu se:roi:-N ?ate:-gisje:N-hu:zi
して(行ったり来たりして) していた 制度も あつたらしいよう

je:bi:-siga ?uri:-ga sika:ma:rui:si:-tu mata mutusin
ですが、 それが シカーマといつと、 また、 元金

(4) karamisei:-ja katamiti ?unu:-ja: cikari:si:-ja na rusi:ru-
負うのは、 負って その家で 使われるのは もう 身代金

(5) rici hunu:-hu:zizi:nu kono: zin:-nu mici:-nu jari tui:-N
といって、 そのような ここの お金の 通の やり 取りも

?ate:-gisje:N-hu:zi:je:bi:-siga ?uri:-ga ne:N natasi:-ja
あつたらしいようですが、 それが なく なつたのは，

hanasi: kici:-ruN sabi:-ne:ti ojo:-ru ?N: (hwana)
話を 听いてみぞ しますと、 丁度 シー，

taisjo:-zbai:-mari: ?aNsInu kutu ?ataN-ri ?i:-ne:te
大正時代まで そのような ことが あったと 言うと

so: sa:biraNa:-hwazi:-je:bi:-siga je: taisjo:-hacine:-N-
信じ ませんで しょはですが、 シー， 大正 8年

nu buqkato:ki je rai:-nizi je rai:-?icizi:-sje:Nc:
の 物価貿易， シー， 第二次 シー， 第一次戦争，

sekai:-taijese:nu:-nu ?atu:-nu buqkato:ki:-ne:ti ?a sima:-
世界大戦争の 後の 物価貿易， ア 島

⑥ ?aru se:non:-nu ns: ninzju: hwarac:i-N mutusin:-
の ある 青年が もう 年中 借いても 元金

ja kiriran muru na: ri:-bake: kiriN saku:-jaraba
は されず、 全部 も 利子ばかり される 状態であるならば，

(6) ma: ra hinngiti 9izi na: ai: simaziri?ina:ka:-hin:gati
ここから 逃げて いて、 ものの ア 島民田舎あたりへ

(7) hi:jo: hicu ?unu zin harariba nairu:-rici hinNgite:nu
日僧 して その お金 払えば よいのだといつて 過げた

(8) N: se:neN-ga tai miqajai wute:-gisie:N-hu:xi:-je:bi:N
シー， 青年が 二人 三人 いたらしいようです。

?aNe:ai na: simaziri-nu ?ina:ka-ri ?ja:bii-siga ?uri
そこで もう 島尻の 田舎と いいますが、そこを

?ina:ka ?ina:ka sotbi:-siga ?ina:ka-Ngati hiNgiti
田舎 田舎 してありますが、田舎へ 通けて

?izi ?ama-ne:ti hijo: hicci je: ?uneti: ?uNeju:-nu
行って、あそこで 日傭 して、エー、その時 その人の

kamatitute:nu rusi:ru-ja je: guhjaqkwaN-ri ?ja:bii:-
負っていた 身代金は エー、五百貫と いいます

gaja: zju:jeN guhjaqkwaN-ri ?ja:bii:-siga guhjaqkwaN-
かしら、 10円、 五百貫と いいますが、 五百貫

jate:-gisjeN-hu:zi:-ja:bi:-siga guhjaqkwaN mo:kiti ci:
であったらしいようですが、 五百貫 借けて きて

rusi:ru taqkuri na: rui:-nu mimi: nati na:
身代金 払い入れて もう 自分の 身体に なって もう

?iciniinmae nati ma: tabi:Ngati ?izitNu-runu hwanasi:
一人前に なって、ここから 旅へ 出たという 話を

(9) ojui kiki kiki hicci ?aNe:si: na: simaziri hoMe:N-
一人 聞き 聞き して そこで、もう 島尻 方面

gati no:ka-N ja:-na:ti sa:ta:si:-nu tima: mo:kiti
へ、 島尻の 家で 砂糖製造時 間の 手間賃を 借けて、

haNei ti:cina: ti:cina: rusi:ru kira:ci:-si: na:
こうして 一つずつ 一つずつ 身代金を きらしていって、もう

na:ru:ru: ?u: nato:-gisjeN-hu:zi:-je:bi:-siga nama:kara
各自の身体に ウー なったらしいようですが、 今から

(10) kaNge:-ne:ti Nna naNzju:nin hataraci-N na: Ne:ja
考えると、 なんと、何十年 借っていても もう なるほど

mutusin:-ja kiriraN tara ri:-bake: kiritaN-ri
元金は きれず、 ただ 利子ばかり れたと

?i:-ne:ti:ja je: na: tai:ru-ga:jataN-te:kaN ?aNeinu
言うと エー、もう 誰がだったとしても あのような

kutu: ?ata:-gaja:-ri yuumi:sabi:-siga na: ?unu
ことが あつたかしらと 見いますが、 もう その

to:gi:-ja ?ucina:-jataN-te:kaN na: mo:ki:ruku:ma-N na:N
当時は 仲間だったとしても もう 借けるところもなく、

mo:ki:ra:riN tukuma: ?ari:ba:-ru mo:ki:-ru (su:ru)
借けられる ところが あればぞ 借けぞ (する)

sa:bitt:-siga mo:ki:ra:riN tukuma: ne:nu mata du:-nu
しましたが、 借けられる ところも なく、 また、 自分の

na pi:ne:muN-nu kakaisi:-ja rui:-nu kwa:-nu
もう 貧乏者が かかるのは頗りにするのは 自分の 子に

kakairai:ru o:ju:-nu mu:N nusumara:N na: ha:Nsi
かかれののであって、 人の のもの 盗まれず、 もう、 こう

so:ti:-N na: zinu: katuti: je sa:Nne: nara:te:-gisjeN-
していく もう お金を 借りて エー、 しないと いけなかつたらしい

hu:zinu ?u: zirai:-nu ?ate:bi:N je: ?u:N kutu
ような ウー 時代が ありました エー、 その こと

hwani: si:-ne:ti:ja na: nama:-nu wara:Na:ja:t:a
話 すると、 もう 今 の 子供達は

cja:si:N ?uri: wakai:-ja sa:Nra:-ri yuumi:bii:-siga
どうしても それを わかりは しないくらいと 思いますが、

(11) ?ata:N-runu hwani:si:-rake:-ja na: zizicu:-nu N: hwani:
あつたという 話だけは もう 事実の シー、 話、

(12) na si:kuzima-jatiN zuqtu na: tsutae kira:ta:N
もう 薩底島でも ずっと もう 伝え 来ている

hwani:si:-(je:)-je:bi:N
話 (エー)です。

4. 下男奉公についての笑い話と悲しい話

解説：苦しい下男奉公という生活中であったいろいろの笑い話や悲しい話について、話者が伝え聞いているところを述べている。

je: namahudu Ncja na: ziniNkwa-nu ?awarina kutu:
今ほど なるほど もう 下男子の あわれた こと、

hwanasi:-N N: ?aibi:-siga ?unu: waraibanaasi:-N
后も ン ありますが、 そのー、 笑い話も

(1) ?ari:be mata hisjoju na de:zina je: ?awaribanaasi-
あれ、 また、 非常な もう 大変な エー、 あわれ話

N ?aibi:N cjo:ru hicigwaci:-nu na: kjui:-nu
も あります。 丁度、 7月の もう 旧暦の

hicigwaci:-nu ?asi:bi:jate:-gisjeN-hu:zi:je:bi:siga na
7月の 遊びだったらしいですが、 もう

hwatNturi ?ata:ti hic-i-hicja:kutu na: ziniNkwa
思ひつけねるおいで あたって してしたところ、 もう 下男子を

?asibasa:nu na: piNima:-hara ?iwi:ti ?izi hanra
遊びばせ、 もう 並間から 出て 行って かげを

?uirscje:-gisjeN-hu:zi:je:bi:NmuNu ?aNsI na: ju:
根えさせたらしいようですのに、 そこで もう 夜IC

?iqciN ns: je:NsA:-N si:bare:ru hicigwaci?asi:bi:-N
入っても もう 盛隔りも しよう、 7月遊びも

si:bare:ru-rici so:-siga na: nusi:-ja ke:canu
しようといって しているが、 もう 主は 帰さず、

hicjakutu na: ?unu ziniNkwa:-ga " ri: kure: na:
そこで もう その 下男子達が " どうだ、 これは もう

(2) wacja:ku si:ba nairu:-rici knra muru sakesima?ui
いたずら したら 上い といつて かげを 全部 逆様え

hici hicje:-gisjeN-hu:zi:je:bi:-siga je: na: ?aqcja:
して したら いいようですが、 エー、 翌日

nusi:-nu ?isi mici hicjakutu Ncje na: sakasima ?uiti
生が 行てみて したところ なるほど もう 逆に 想えて

ne:nu na: ?ure: ju:namuNre:ru
しまって もう、 それは 世の吉凶によるんだ【かげらの育つ育たないは世の吉凶による

(3) haNnagito:ke:-rici ?aNeima:ma: hicjakutu na:
はって受けといっ、 あのまま したところ、 もう、

(kaN N:) haNra-rekutu na: na: muito:N-ba:-jo:biteN-
かげでですから、 もう もう 生えているわけです

sai je: ?uri-ga mata ?umu: ?imikici ?iqci-
ね エー、 それが また 手芋 大変 入って[笑って]

jo:-sai ?urihi:ja:tu na: ?uri-N ti:c-i-nu
ですね。 そしたら もう それも 一つの

waraibanaasi:-je:bi:-siga na:ti:ci:-ja so:ru na:
笑い話ですが、 もう一つは 丁度 もう

ziniNgwa cju:-ne: sikarari:se:-ja ?aNto:zi na: a:
下男子 人に 使われるは あの当時 もう アー

kumi:-N ne:nu me:-N ne:nu ?atai (re: je:-)jeton
米も なく、 米も ない ぐらいであった

zirai-je:bitu na: so:gwaci:-nu ?ws:si na: ?uri-ru
時代ですから、 もう 正月の 脂肉、 もう それぞ

macikanTe:-jate:-gisjeN-hu:zi:je:bi:-muNu so:ru
待ち遠しいだったらしいようですのに、 丁度

so:gwaci:-nu zju:juqka:-nu hi: na: kimatti ?unu:
正月の 14日の 日IC もう 決って その

?wa:si:-ja na mahai:-ne: ?inti ku:si:-ja na nanshaki
豚肉は もう おわんに 入れて くるのは もう 7切れ、

na: me:nin-me:nin kimati:-gisjeN-hu:zi:je:bi:-siga
もう 每年 毎年 決っていたらしいですが、

9aN cjuke: na: ns me:nIN na: nnahwaki-re:bitu
 そこへ 一組 もう もう 你乍 もう 7 切れですから
 Puri-ga ?uho:ku nsiN-bo: ?ai-ga su:ra-ja:-rici ?unu
 それが 多く なるも あるか しらねといつて、 セの
 hwsasai: sa:-gasina: ?unu ziniNgwata: ?acimatuti
 話を しながら その 下男子達が 黙っていて、
 ?aru kine:-nu-re:bin-ro: N: ?acimatuti na: hanasi:
 ある 家庭のですよ、 シー、 黙っていて もう 話
 su:te:-gisejN-hu:zi:-je:bi-muNu hisjo:ni kumu ko:keina
 (4) していたらしいようですねに、 非常に この 滑稽な
 ni:sje:-ga wutaN N: wute:-gisejN-hu:zi:-je:bi-siga
 背景が いた シー、 いたらしいようですが、
 "ruka jukka-nu sisi-ja saramati-nu mihaki siraN
 1 4 H O 内は 定っての 5切れ 知らず
 nnahaki-N ?ai-ga su:re"-rici ?unu wakasje:nu
 7切れも あるか しら "といつて その 若い
 ni:sje:-nu na tuNgA-na:ti ?uta hicje:-gisejN-hu:zi:-
 背景が もう 合所で 歌 したらしいよう
 je:bi-mu ?aNa:i mo:-nu jikiganusi-ja ?uri kici
 ですのに、 そこで ここ 男の主人は それを 聞いて、
 *to: na: ?uNto:-ga ?yu:nu ?uta kici miriba meinin
 *なるほど もう それ達が 言う 歌を 聞いて みれば、 毎年
 ns: Neja sisi: ?uqqa-na: (5) kamaci naraNkutu ne:
 もう なるほど 肉を それだけすつ 食べさせは いけないから もう
 kui:-nu ku:-nu-ba:-ja ?ihi-ja na: ?uho:ku kamasje"-
 今日の、 今日の時は 少しは もう 多く 食べさせなさい"
 ricu ru:-nu kumu: (Nnisi) 9aN ziniNgwata: juri sisi-N
 といって、 自分の この一 もの 下男子を 呼んで、 肉も
 ?uho:ku naci kamasimitaN-ricinu ka:ojan-ricinu hanasi:-mu
 多く して 食べさせたという 食べさせたという 話が

?aibin ne:ti:ci:-ja mata ?anu: ?uhumugi-rici ?ure:-ja
 あります。 もう一つは また あのー 大変といって、 それは
 siguNgaci-ne: turarina: ?uhumugi (ji:)-je:bi:-
 4・5月に とられる【収穫できる】 大変 (イー) です
 (6) siga ?uhumugi-ja ?usi-ne: ?iNti hici sosite a: na:
 が、 大変は 白に 入れて 握いて そして ブー もう
 ?wa:bi-nu ha: turiba-ru na pirame:-tuka hici
 上の 皮を とればそ もう 麦飯とか して
 ka:rin-ba:-je:bitu (?uri kumi:) N: ?uhumugi
 食べられるわけですか シー 大変を
 sikacje:-gisejN-hu:zi:-je:bi:-mu na: ?aNto:-na:
 握かせたらしいようですねに、 もう あの当時は
 wakaraN tara sikikurusiba na ?atu ha: mugin-rici-
 わからず、 ただ 握きつけると もう 後 皮が むけるといって
 (7) jate:-gisejN-hu:zi:-je:bi-siga na: juru:junaka:mari:-N
 だったらしいようですが、 もう 夜夜中までも
 na: mugi: (sika) ?usi-ne: sikasaqtu hicje:tu ?unu
 もう 麦を 白に 握かされて したところ、 その
 jinaguwara:bi-nu ruku ?awa:ri-nu ?ui-ni na: nara:
 女の子供が ありの あわせさの うえに もう 麦が
 ?izi:ti ci: ?unu nerai-nu siNrei-siNre: ?usi:Ngati
 出て きて、 その 漢が 次第 次第に 白へ
 ?iqci hicihicjata: ?unu sikiqasiku nati ?izi
 入って、 そしたら その 握きやすく なって いって
 tarema na: ?unu: ?uhumugi-N ejuraku nati ?uN
 じきに もう そのー 大変も きれいに なって、 その
 pirame:-N hici ka:rin-gutu nataN-rici hwanasi:
 麦飯も して 食べられるように なったといつての 話。
 ?uri-kara je: na: ?unu ?uhumugi-ja mizi ?iNti
 それから エー、 もう その 大変は 水 入れて

注

siki:ba ha:ku ?unu: ka:riN-gutu neisa-ja:-rici mizi
掛けば 早く その一 食べられるようになるのだねといって、水

?iNti sikihwazimataN-ru:nu hwansi: na: mukasi-nu
入れて 掛きはじまつたという 話。 もう 言の

na: mo:kikata:-N ne:N zininkwa-ta hicci na: ?e:kiNoju
もう 働けるところもなく、 下男子として もう 資産家

?aNei sikarari:si-N huNto: na: ?iru?iru-nu
あのうに 使われるのも 本当 もう いろいろの

?awarabanasi: mata ?iru?iru-nu warabanasai: nuNkui
あわれ話、 また いろいろの 笑い話 いろいろ

?ai-ja sa:bi:-siga na: ?uri-ja ?uri-tu hicci na:
ありは しますが、 もう それは それと して、 もう

mukasibanasi:-tu hicci na kiku:nu ?uqsa-sje:-jatini
苦舌と して もう 聞く だけでも

simi-ja san-gaja: mata ?uri kici nama-nu
すみは しないかしら、 また それを聞いて 今の

waraNojs:ta:-ga na: mata tici-nu sje:sinteki-nu
子供達が もう また 一つの 精神的の

kjo:piku nari:bu mata ?i: hanasi: ?araN-gaja:-ri
教育に なれば また 良い 話 ではないかしらと

?umuto:N sira:-je:bin
思っている 次第です。

I 上間幸次郎氏の自然会話

1 潜底島のノロと門中について

P 8 (1) ?aNea: ?aNeata の縮まった形。 ?aNea は《あれ》 ea は《する》の未然形、 ba は仮定条件を表わす助詞。直訳すれば《あゝすれば》となる。

P 8 (2) 《資産家のこと》 sicuku:e:ki: は家号で、一名 ?aga:ri ともいう。

P 8 (3) nuro: nuru ja 《ノロは》の縮まった形。

P 8 (4) ricci ri?icci の縮まった形。 ri は《と》， ?icci は《言って》。

P 8 (5) ga 疑問を表わす係助詞。その結びの活用形式の語尾は必ず-aの形をとる。 ga je:misje:tara

P 9 (6) 共通語的。方言では kuci: という。

P 9 (7) 地名、潜底島の略図参照。

P 9 (8) 家号、 sisuku:e:ki: ともいう。

P 9 (9) 地名 潜底島の略図参照

P 9 (10) 家号 現在のノロの出ている家である。

P 9 (11) 家号

P 9 (12) ?ure: ?uri ja 《それは》の縮まった形。

P 9 (13) 地名、潜底島の略図参照。

P 9 (14) 本部町字浦崎のこと。

P 9 (15) hiccia:tu hicci hicja:tu の縮まった形。 hicci 《して》 hicja:tu 《したら》，直訳すれば《してしたら》となる。

- P 9 (16) ru:tu ri ?ju:nutu の縮まった形。ri は《と》?ju:nutu は《音う》tu は《と》
- P 10 (17) 共通語的。方言では sizjajinaguNgwa となる。
- P 10 (18) 家号
- P 10 (19) 家号、瀬底の根所といわれている。
- P 10 (20) 《ウフジユクの立ちはじめりは……》とうちだしているが、以下述べていることは、その立ちはじめりについてではなく、ノロの争いについて述べている。話者の頭の中には《ウフジユクの立ちはじめり》と《ノロの争い》についての二つの主題が入りまじっていたようである。
- P 11 (21) 家号
- P 11 (22) ?are: ?ari-ja 《あれは》の縮まったもの。
- P 11 (23) nururuNci という押所の一角にある屋敷のこと。
- P 12 (24) pi:が純瀬底方言である。本部町渡久地方言の影響で hi:となっている。
- P 12 (25) 共通語的。方言では mutuja: という。
- P 13 (26) 神がその存在を人々に告げ知らすために、ウフュミシヌグイの祭りの夜に鐘を打ったという。これをエンガニーと呼んでいる。
- P 13 (27) 家号。nururuNci という押所の近くにある家。
- P 13 (28) 共通語的。方言では ruku となる。
- P 13 (29) 共通語的。方言では ?ama となる。
- P 13 (30) ?uhujumi sinu:gu 7月の中旬に3日間続いての祭りがあるが、それをいう。?uhujumi は祭りの最初の日に、各家ごとに餅をつくって、各々の資産に応じてそれをウチグシク山というところへ奉納する儀式をいう。sinu:gu または sinugui は、次の日に、粟や穀でつくったどぶろくをウチマンモーという広場で神

に奉げる儀式をいう。女の神人が馬に乗って西の浜に下りていって折りをするのもその日である。

最後の日は haNbuto:ki といって、男の神人が各家をまわって悪風を払う儀式がある。白太鼓もその日に催される。

- P 13 (31) 地名、一名ウチグシク山ともいう。略図参照。
- P 13 (32) hure: huri-ja 《これは》の縮まった形。
- P 14 (33) 共通語的。方言では zjo:i となる。
- P 14 (34) munu: munu-ja 《ものは》の縮まった形。
- P 14 (35) wane: wani-ja 《私は》の縮まった形。
- P 16 (36) ?ukamiguto: ?ukamiguto-ja 《御神事は》の縮まったもの。

2. 初代ノロについての逸話

- P 17 (1) ?uNojo: ?uNoju:-ja 《その人は》の縮まった形。
- P 17 (2) 地名、略図参照
- P 17 (3) 瀬底島と沖縄本島にはさまれた海峡、今でも台風の時には船舶がよく避難する。
- P 17 (4) ha:tutu 直訳すれば《かかっていて》となる。
- P 17 (5) hja: 相手をさげすみ、言ひけなす時に用いる終助詞。
- P 17 (6) sjaNpa 中部読谷村の西側に突き出た岬。那覇港へ向う船はそこをまわっていく。普通でも波が高いところである。
- P 18 (7) ?ato: ?atu ja 《後は》の縮まった形。

II 上間真好氏の自然会話

1 島の概況

- P 20 (1) kara 漣底方言では hara となる。他方言（主に本部町渡久地方言）の影響
- P 20 (2) kai 漣底方言では Ngati となる。他方言の影響
- P 20 (3) hazimiti hwazimiti が純漣底方言である。
- P 20 (4) 共通語的。後で muru と方言で言いかねしている。
- P 21 (5) rinu ri ?ju:nu 《という》の縮まった形。
- P 21 (6) kura:bi 《比較》の体言が入るべきであるが、ここではそれが欠けていて不自然な表現法となっている。
- P 21 (7) 本部町字倅堅にある川。
- P 21 (8) 共通語的。方言では kura:si となる。
- P 21 (9) 共通語的。方言では hunu となる。
- P 21 (10) ke:ga: 直訳すれば《食う川》となる。飲み水をためた池のこと。
瀬底方言では《池》も ha: となって、共通語の《川》に対応する形式を用いている。
- P 21 (11) 共通語的。方言では mitukuru となる。
- P 21 (12) huto:bi: 漣底方言では huti:bi: となる。他の方言では《彌っている》《書いている》等は huto:N, kacjo:N となるが、瀬底方言では huti:N, hacin で -o:- の形はとらない。
- P 22 (13) 共通語的。方言では ?ai ?ju:nu となる。
- P 22 (14) ne: 《に》がくるのが自然である。
- P 22 (15) ri 《と》がくるのが自然。
- P 22 (16) hwaru が瀬底方言である。
- P 23 (17) 浜崎（健壁）と瀬底とにはさまれた海峡。

P 23 (18) 稲を育いで進める舟。

P 23 (19) maNnata:buku maNna は《満名》で地名、本部町字並里のこと。
ta:buku は《田んぼ》で満名にある田んぼのことをいう。

P 23 (20) karute:nu 漣底方言では ke:te:nu となる。他方言の影響。

P 24 (21) hwanasi: が瀬底方言である。

P 24 (22) 共通語的。方言では ?ubirazi 《突然、思いがけない》を用いる。

P 25 (23) 共通語的。方言では ?uqsaheciN となる。

P 25 (24) 共通語的。方言では muqtu となる。

P 26 (25) 共通語的。方言では ?izja:nu となる。

P 26 (26) 共通語的。方言では kuru:ma である。

P 26 (27) 共通語的。方言では hunu となる。

P 26 (28) 地名、略図参照。

P 26 (29) ri:nu ri?ju:nu 《という》の縮まった形。

P 26 (30) 共通語的。方言では so:ru となる。

P 26 (31) hajabukija: が瀬底方言である。

P 28 (32) 共通語的。方言では saimain 《終わる》を用いる。

P 28 (33) 地名、略図参照。

P 28 (34) 地名、略図参照。

P 28 (35) 共通語的。方言では si:tu: となる。

P 28 (36) 共通語的。方言では zjo:to: を用いる。

P 29 (37) 共通語的。方言では ja: 《家》を用いる。

P 29 (38) 共通語的。方言では Neja となる。

P 29 (39) rito: N kaNkei re 共通語的。方言では hwanarizima-nu cigo:sai 《離れ島の都合で》となる。

- P 29 (40) 濱底方言では *hajo:ti* となる。
- P 29 (41) 共通語的。方言では *?imikici* となる。
- P 30 (42) 一定のグループで砂糖製造のために建てた家、そこには砂糖製造に必要ないろいろ道具がそなえられている。
- P 30 (43) *kibi-nu ?aqasaku* 共通語的。方言では *wugi: kwa:suN* を用いる。
- P 31 (44) 共通語的。方言では *nama hara* 《今から》となる。
- P 31 (45) 共通語的。方言では *wugi:* である。

2. 濱底島の年中行事について

- P 32 (1) *nururuNci* は《ノロ殿内》で、そこはノロがいつも拝んでいる。拝所の一つ。略図参照。
- P 32 (2) *nururuNci* の東側にある森。その森の中に一つの拝所がある。
- P 32 (3) 拝所の一つ。伝えによると唐に關係ある神を祭っているとのこと。
- P 32 (4) 渡船の発着する浜の近くにある拝所。
- P 32 (5) 島の西側の森の中にある拝所。一名 *mja:tuja?ugwaN*ともいう。
- P 32 (6) 島の南側の森の中にある拝所。
- P 32 (7) *?uhu?ugwaN* 男女の神人と区長を加えた人数で7御嶽をまわって拝む儀式。年2回行なわれる。
- P 32 (8) *watakusi?ugwaN* 男女の神人が *nururuNci* の拝所をウフジュクにあるアサギという拝所を拝む儀式。
- P 33 (9) 共通語をそのまま方言化した形。方言では *?uri hara* という。
- P 33 (10) *sika:sani* 旧暦12月に男女神を個人宅に招いてごちそうする儀式。現在はなくなっている。
- P 33 (11) 共通語的。方言では *sa:bi: siga* 《しますが》を用いる。
- P 33 (12) 共通語的。方言では *kara:ta* という。
- P 34 (13) 共通語的。方言では *ke:so:* を用いる。

- P 34 (14) *nuruganasi: -ganasi:* は尊敬を表わす接尾辞。《太陽》には *tira* というが、尊敬をこめたときは *tira-ganasi:* となる。
- P 35 (15) この *je:* 以下は次のようになる。 *je:bi:ra wakajabiraN siga* 《であるかわかりませんが》の下線の部分が欠けている。
- P 36 (16) 男神の中で一番上位の神人。
- P 36 (17) 共通語的。方言では *kwa:ma:ga* となる。
- P 37 (18) *kahti* 濱底方言では *haNti* となる。他方言の影響。
- P 37 (19) 祈禱をする際のとんこつば。意味は不明。
- P 38 (20) 地名。ある一定の広場がある。略図参照
- P 39 (21) *to:kaci* 濱底方言では *to:haki* である。他方言の影響。
- P 40 (22) 共通語的。方言では *?urihara* 《それから》を用いる。
- P 40 (23) 共通語的。方言では *huri* となる。
- P 41 (24) 共通語的。方言では *simai* 《終り》または *?icibaN ?atu* 《一番後》を用いる。

3. 下男奉公について

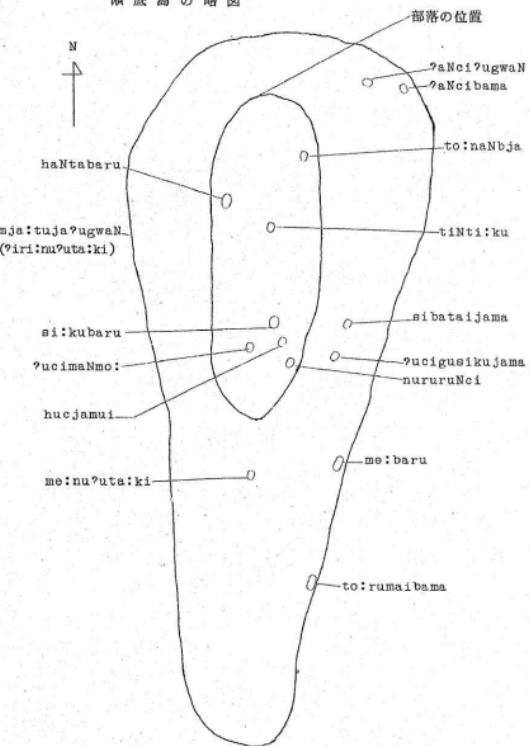
- P 42 (1) *ziniNbuk:ku:* 直訳すれば《下人奉公》にあたる。*zinaNbuk:ku:*と同じ。
- P 42 (2) *kakarumuN* 濱底方言では *hakarumuN* となる。他方言の影響。
- P 44 (3) 共通語的。方言では *?ikitutu:mi* となる。
- P 45 (4) *katamiti* 濱底方言では *hatamiti* となる。他方言の影響。
- P 45 (5) 共通語的。方言では *hunu* となる。
- P 45 (6) *hara* 《から》の *ha* が脱落した形。
- P 45 (7) *harariba* 濱底方言では *hwavarriba* となる。他方言の影響。
- P 45 (8) 共通語的。方言では *ni:sje:* という。

- P 46 (9) 共通語的。方言では hiN 《あたり》を用いる。
- P 46 (10) hataraci 濱底方言では hwataraci となる。他方言の影響。
- P 47 (11) 共通語的。方言では huNto: 《木当》を用いる。
- P 47 (12) 共通語的。方言では nagares: 《長く》を用いる。

4. 下男奉公についての笑い話と悲しい話

- P 48 (1) 共通語的。方言では ro:zina という。
- P 48 (2) kaNra 濱底方言では haNra という。他方言の影響。
- P 49 (3) haNnagito:ke: 濱底方言では hwaNnagituke: となる。他方言の影響。
- P 50 (4) 共通語的。方言では te:hwa という。
- P 50 (5) kama:ci 濱底方言では ka:ciとなる。また、他方言の kamasje: 《食べさせをさい》 kamasimitaN 《食べさせた》は ka:sje: , ka:cjaN となる。
- P 51 (6) 共通語的。方言では ?urihara 《それから》を用いる。
- P 51 (7) juru:junaka 濱底方言では juru;junaha となる。他方言の影響。

瀬底島の略図



非売品

1971年3月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

115 東京都北区箱付西山町

